第2期中期目標期間終了時に見込まれる 業務の実績報告書

令和元年6月

地方独立行政法人長崎市立病院機構

目 次

-	~-		-	TOL 25
	÷I		Mι	TOTAL (TOTAL)
1	冱.	Л	vj	概要

	1	名和	称	1
	2	所	在地	1
	3	設	立年月日	1
	4	設	立目的	1
	5	純	資産の状況	1
	6	組約	織図	1
	7	役」	員の状況	2
	8	常	勤職員の状況	2
	9	設情	置及び運営を行う病院	3
	1 0	病	院の沿革	4
	1 1	理》	念等	4
I	第	2 期中	中期目標期間終了時に見込まれる業務実績報告	
1	項	目別の	の業務実績(小項目 業務実績報告と法人の自己評価)	5
		住民に	に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項	12
		1	診療機能	
		2	住民・患者の視点に立った医療サービスの提供	38
		3	マグネットホスピタルとしての機能	
		4	法令・行動規範の遵守	56
		業務法	運営の改善及び効率化に関する事項	
		1	組織体制の充実・連携強化	58
		財務に	内容の改善に関する事項	62
		1	持続可能な経営基盤の確立	
		2	業務の見直しによる収支改善	
		その	他業務運営に関する重要事項	68
		1	新市立病院建設の着実な推進	
		2	新市立病院における事業の円滑な推進	
		予算	(人件費の見積りを含む。)、収支計画及び資金計画	70
			借入金の限度額	
			な財産を譲渡し、又は担保に供する計画	
		剰余?	金の使途 [,]	73
		そのは	他長崎市の規則で定める業務運営に関する事項	74

Ι 法人の概要

1 名 称

地方独立行政法人長崎市立病院機構

2 所在地

長崎市新地町6番39号

3 設立年月日

平成24年4月1日

4 設立目的

長崎市における医療の提供、医療に関する研究、技術者の研修等の業務を行うことにより、市民の立場に立った質の高い医療を安全かつ安定的に提供し、もって市民の生命及び健康を守ることを目的とする。

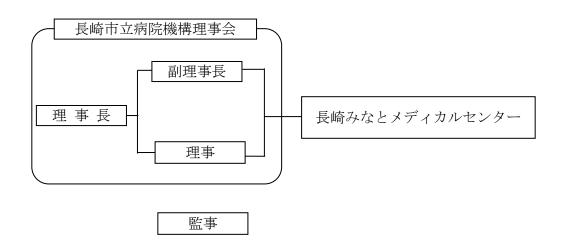
5 純資産の状況

(単位:百万円)

区分	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
資本金	842	-	-	842
資本剰余金	32	1	-	32
利益剰余金(▲:繰越欠損金)	▲ 2,101	33	-	▲ 2,068
純資産合計	▲ 1,226	33	-	▲ 1,194

(注) 計数はそれぞれ四捨五入によっているので、端数において合計とは一致しないものがあります。

6 組織図



7 役員の状況

(平成31年4月1日現在 五十音順、敬称略)

役員	氏 名 (任期)	備考		
理事長	兼松 隆之 (H28.4.1~R2.3.31)	・地方独立行政法人長崎市立病院機構 理事長		
	杉町 圭蔵 (H28.4.1~R2.3.31)	・九州大学名誉教授 ・遠賀中間医師会病院 統括院長		
副理事長	松本 晃 (H28.4.1~R2.3.31)	・RIZAP グループ株式会社 取締役 ・カルビー株式会社 シニアチェアマン ・特定非営利活動法人 日本から外科医がいな くなることを憂い行動する会 理事長		
	勝野 久美子 (H30.4.1~R2.3.31)	・社会医療法人春回会 法人統括看護部長兼長崎北病院看護部長		
	草野 孝昭 (H30.4.1~R2.3.31)	・地方独立行政法人長崎市立病院機構 常勤理事		
理事	髙橋 晴雄 (H30.4.1~R2.3.31)	・長崎みなとメディカルセンター 耳鼻咽喉科 主任診療部長		
上 事	千葉 憲哉 (H30.4.1~R2.3.31)	・医療法人祥仁会 西諫早病院 理事長		
	ブ゛ライアン・ バ ークカ゛フニ (H30.4.1~R2.3.31)	· 長崎総合科学大学 共通教育部門 教授		
	森崎 正幸 (H30.4.1~R2.3.31)	・一般社団法人 長崎県医師会 会長 ・医療法人宝マタニティクリニック 理事長		
F/- ±-	川﨑 清廣 (H30.4.1~R 元年度財務諸表承認日)	· 川﨑清廣税理士事務所 所長		
監事	白石 裕一 (H30.4.1~R 元年度財務諸表承認日)	· 元長崎市上下水道事業管理者		

8 常勤職員の状況 (平成31年4月1日現在)

常勤職員(正規職員)は、平成31年4月1日において859人(前年比24人増加、2.8%増)で平均年齢は36.2歳である。

(平成31年4月1日現在)

					長崎みなとメディカルセンター
所		在		地	長崎市新地町6番39号
開設年月日					昭和23年12月1日
院				長	兼松 隆之
許	可	病	床	数	5 1 3床
	一般	病房	₹		494床
	結核	病月	₹		1 3 床
	感染	症疹	京床		6床
					・長崎医療圏病院群輪番制病院
					・地域周産期母子医療センター
					・地域医療支援病院
-	۷.	41-	جئر	/-/	・地域がん診療連携拠点病院
土	な	指	正	等	・地域脳卒中センター
					・災害拠点病院(地域災害医療センター)
					・臨床研修病院
					・第二種感染症指定医療機関
					○救急医療 (ER 型の救命救急センターの設置)
		- 3	3 Jr 1=	 , 	○高度・急性期医療(脳血管疾患医療、心疾患医療、がん医療)
日	指す	~	さ医	源	○小児・周産期医療
					○政策医療(災害医療、結核医療、感染症医療)
					35科目
			科	П	内科、呼吸器内科、心臓血管内科、消化器内科、腎臓内科、糖尿病・内
		·= -			分泌内科、脳神経内科、血液内科、心療内科、精神科、緩和ケア外科、
⇒∧.	\ 				産科・婦人科、新生児内科、新生児小児科、小児科、小児外科、外科、
診	療	,		目	消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、乳腺・内分泌外科、肛門外科、
					整形外科、形成外科、脳神経外科、麻酔科、放射線科、皮膚科、泌尿器
					科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、臨床腫瘍科、病理診断
					科、救急科
敷	抴	ī <u>i</u>	面	積	11, 017. 72m ²
					I 期棟 鉄筋コンクリート造(免震構造)地上8階地下2階
					Ⅱ期棟 鉄筋コンクリート造(免震構造)地上4階地下1階
7-1-	,		I. 	ملارا	マニホールド棟
建	物	7	規	模	駐車場棟(335台) 鉄骨造 地上5階
					総建築面積 8,215.71 m²
					総延床面積 48,720.67 m ²

10 病院の沿革

昭和23年12月1日	長崎市立市民病院として開設 (内科、外科及び耳鼻咽喉科の3科。病床数96床)		
昭和 32 年 7 月 1 日	総合病院の承認を受ける		
平成8年12月20日	災害拠点病院の指定を受ける		
平成 14 年 12 月 9 日	地域がん診療連携拠点病院の指定を受ける		
平成 15 年 10 月 30 日	新医師臨床研修制度における臨床研修病院の指定を受ける		
平成 17 年 10 月 1 日	地域医療支援病院の名称承認を受ける		
平成 20 年 4 月 1 日	地域周産期母子医療センターの指定を受ける		
平成 24 年 4 月 1 日	長崎市から「地方独立行政法人長崎市立病院機構」へ運営形態を移行		
平成 26 年 2 月 24 日	長崎みなとメディカルセンター 市民病院と名称変更 新病院 I 期棟開院		
平成 28 年 3 月 1 日	新病院 Ⅱ期棟開院		
平成 28 年 3 月 27 日	長崎みなとメディカルセンター 成人病センター閉院 長崎みなとメディカルセンター 市民病院と統合		
平成 28 年 7 月 1 日	新病院 全面開院(513 床)		
平成 29 年 1 月 28 日	新病院 グランドオープン 駐車場棟供用開始		
平成 29 年 4 月 1 日	長崎みなとメディカルセンターと名称変更		
平成 30 年 4 月 1 日	地域脳卒中センターの指定を受ける		

11 理念等

【長崎市立病院機構】

われらが思い	患者さんとそのご家族から、職員とその家族から、そして地域から信頼され、愛される病院となります。
目標にむかって	 思いやりの心をもち、安全で質の高い医療を提供します。 地域に根ざすとともに、国際的視野をもった病院になります。 人間性豊かな医療人を育成し、医療の発展に貢献する研究を行います。 みずから考え、やりがい、喜び、誇りをもてる環境を創ります。

Ⅱ 第2期中期目標期間終了時に見込まれる業務実績報告

1 項目別の業務実績

(1) 医業活動

項目	平成 28 年度 実績値	平成 29 年度 実績値	平成 30 年度 実績値	令和元年度 目標値
救急搬送人数(人) (暦年)	3,889	4,538	4,228	3,300
手術件数(件)	3,417	3,723	4,138	3,500
紹介率(%)	62.3	64.9	75.8	50.0 以上
逆紹介率(%)	95.3	102.3	131.8	70.0 以上

(2) 住民患者サービス

項目	平成 28 年度 実績値	平成 29 年度 実績値	平成 30 年度 実績値	令和元年度 目標値
クリティカルパス適用率 (%)	48.2	52.0	55.4	50.0
患者アンケートによる 満足度の向上(%)	82.9	86.3	86.8	85.0

(3) 医師数

項目		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
		実績値	実績値	実績値	目標値
医師数(人)		96	98	100	96

- (注1) 医師数には、研修医は含みません。
- (注2) 実績値は、3月31日現在のものです。

(4) 看護体制

項目	平成 28 年度 実績値	平成 29 年度 実績値	平成 30 年度 実績値	令和元年度 目標値
7対1看護体制	7対1看護体制維持	7対1看護体制維持	7対1看護体制維持	7対1看護体制維持

(5) 患者動向

	項目	平成 28 年度 実績値	平成 29 年度 実績値	平成 30 年度 実績値	令和元年度 目標値
入院	延べ患者数(人)	137,981	145,722	145,189	158,200
<u>×</u>	1人1日当たり単価(円)	63,853	64,874	65,941	73,500
般病床)	病床稼働率(%)	80.3	80.8	80.5	87.5
	平均在院日数(日)	11.5	11.2	11.3	11.0
外	延べ患者数(人)	139,534	143,473	144,463	145,200
来	1人1日当たり単価(円)	19,120	19,225	20,137	17,200

- (注3) 1人1日当たり単価は、医業収益の内、その他医業収益及び保険料等査定減を除く入院収益並びに外来収益 により算出しています。
- (注4) 病床稼働率は、平成28年4月~6月は394床、7月以降は494床で算出しています。
- (注5) 小数点第2位を四捨五入して記載しています。
- (注6) 平均在院日数は、退院患者を除く在院患者延べ数により算出しています。
- (注7) 外来延べ患者数には、健診者数は含んでいません。

(6) 経営指標

項目	平成 28 年度	平成 29 年度	平成30年度	令和元年度
	実績値	実績値	実績値	目標値
総収支比率(%)	98.7	103.6	100.0	101.8
経常収支比率(%)	98.2	102.3	101.4	101.8
医業収支比率(%)	92.1	97.0	97.1	98.0
公上弗以龙(0/)	59.6	55.4	56.4	52.9
給与費比率(%)	56.9	55.0	54.6	50.4
材料費比率(%)	25.1	25.9	25.7	24.4
経費比率(%)	13.5	13.0	13.3	15.3

(注8)給与費比率は、上段に退職手当負担金及び退職給付費用を含んだ比率を、下段にそれらを除いた比率を記載しています。 (注9)小数点第2位を四捨五入して記載しています。

【参考】中期計画・年度計画記載の参考値(計画に記載の順序)

1 長崎みなとメディカルセンター

	指	i t	票	平成 28 年度 実績値	平成 29 年度 実績値	平成 30 年度 実績値
	内視鏡手術	等件数	(件)	1,293	1,351	1,271
	がんに関す	る相談人	、数(人)	1,051	1,211	1,189
	緩和ケア	カンファレン	ス・回診(回)	74	69	67
	チーム活動	院内研	修(回)	3	2	2
	がん手術件	数(件)		724	599	683
	放射線治療	件数(件))	5,937	5,037	5,669
	外来化学療	法件数((牛)	2,134	2,507	3,002
В	急性心筋梗	塞手術件	-数(件)	132	141	115
目指す医療	心臓カテー	テル手術	· 等件数(件)	871	724	697
医医	分べん件数	(件)		307	354	317
凉	災害訓練の	実施回数	Ż	年1回	年1回	年1回
	長崎 DMAT	チーム	数	1チーム	2 チーム	1チーム
	感染症患者	数(入院	E) (人)	0	0	0
	結核患者数	(入院)	(人)	1,746	1,314	938
	1日最大	八院患		8	8	6
	1日最大	排菌患		7	8	6
	透析患者数	(入院)	(人)	2,090	2,195	1,774
	透析患者数	(外来)	(人)	11,512	10,318	9,375
	地域医療講	演会開催	崖回数(回)	14	30	23
	地域医療講	演会参加	1人数(人)	808	1,051	589
地	医療福祉相	談件数((牛)	3,583	3,989	4,193
地域医療連携	あじさいネ	ット年度	表末累計値(※平成 21	年 11 月からの累	計値)	
療連	登録施設	数(施設)	121	139	139
携	登録人数	(人)		3,617	4,524	5,603
	紹介数()	()		1,824	2,140	2,516
	アクセス	件数(件)	81,915	126,576	180,297
安医全療	医療安全委	員会開催	崖回数(回)	12	44	48
全療	医療安全研	修実施回]数(回)	47	49	40
対感策染	感染防止対	策委員会	開催回数(回)	12	12	12
策染	感染防止対策	研修の研	修実施回数(回)	55	33	51
外国人へ	外国人患者	松 (延べ入院患者数 () 内は実数	37 (8)	112 (13)	140 (13)
療へ	/ 四八心伯	%X (/\/)	延べ外来患者数 () 内は実数	74 (57)	88 (61)	144 (112)

	指標	28 年度 実績値	29 年度 実績値	30 年度 実績値
	情報誌発行回数(回)	12	12	9
情	患者・家族向け(院内)	8	8	6
│ 情 │ 報 │ 発 │ 信	住民・医療機関向け(院外)	4	4	3
信	ロビーコンサート等の開催回数(回)	2	11	9
	市民向け講演会開催回数(回)	26	20	28
患	患者サービスに係る委員会の開催回数(回)	12	11	5
患者サービス	病院機能評価認定(更新)	3rdG:Ver1.0	3rdG:Ver1.0	3rdG:Ver2.0
<u> </u>	接遇研修開催回数(回)	1	1	2
\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	ボランティア登録数(人)	18	28	27
	看護職員数(人)	542	538	540
適	医療技術員数(人)	144	147	151
適正配置	医師事務作業補助者数 (人)	27	30	31
	100 床あたり職員数(人)	136.5	137.4	139.1
	初期研修医受入数(人)	17	14	18
	治験実施件数(件)	10	12	11
	製造販売後調査件数(件)	14	16	17
研究	臨床研究件数(件)	57	46	38
	学会発表件数(件)(暦年)	280	305	225
	論文件数(件)(暦年)	64	39	40
資格	認定看護師資格取得支援人数累計(人)	14	16	19
公開	診療録開示件数(件)	79	59	73

- (注 10) 急性心筋梗塞手術件数は、診療報酬上「手術」に規定される手技のうち、経皮的冠動脈形成術・ステント留置術(急性 心筋梗塞に対するもの)経皮的冠動脈形成術・ステント留置術(不安定狭心症に対するもの)の合計算定件数
- (注 11) 心臓カテーテル手術等とは、経皮的冠動脈形成術、経皮的冠動脈ステント留置術、経皮的カテーテル心筋焼灼術、体外ペースメーキング術、ペースメーカー移植・交換術をいいます。
- (注 12) 100 床あたりの職員数は、H28・29・30 年度 513 床で算出しています。
- (注 13) 職員数 (看護職員数、医療技術員数、医師事務作業補助者数、100 床あたり職員数、初期研修医受入数、認定看護師資格取得支援人数累計) は、3月31日現在の実績値を記載しています。

評価の基準

(1) 達成状況の評価

評価単位ごとに、年度終了時における中期目標の達成状況、若しくは中期目標期間終了時に見込まれる達成状況について、次に掲げる評価を行うとともに、その判断理由を明示する。また、評価が「B」の場合は、進捗状況の評価を行う。

評価	中期目標の達成状況
Λ	達成している。
A	達成している状況にあると判断される。
D	達成していない。
В	達成していない状況にあると判断される。

(2) 進捗状況の評価

評価単位ごとに、中期目標の達成に向けた進捗状況について、次に掲げる評価を行うとともに、その判断理由を明示する。

評価	中期目標達成に対する進捗状況
1	順調に進捗している。
2	概ね順調に進捗しているが、一部改善を要する。
3	複数の点で改善を要する。
4	根本的な改善を要する。
4	取り組まれていない。

自己評価結果一覧

大小項目	自己評価結果
第2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成 するためとるべき措置	
1 診療機能	
(1) 目指す医療	
ア 救急医療(目標値有り)	A
イ 高度・急性期医療(目標値有り)	A
ウ 小児・周産期医療	A
工 政策医療	A
(2) 地域医療への貢献と医療連携の推進(目標値有り)	A
(3) 安全安心で信頼できる医療の提供	A
(4) 公立病院としての役割の保持	A
2 住民・患者の視点に立った医療サービスの提供	
(1) 患者中心の医療の提供(目標値有り)	A
(2) 住民・患者への適切な情報発信	A
(3) 患者ニーズへの対応の迅速化	A
(4) 職員の接遇向上	B1
(5) ボランティアとの協働	A
3 マグネットホスピタルとしての機能	
(1) 適正配置と人材評価(目標値有り)	A
(2) 医療スタッフの育成	A
4 法令・行動規範の遵守	A
第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	
1 組織体制の充実・連携強化	
(1) PDCAサイクルの徹底による業務評価の推進	A
(2) 事務部門の専門性の向上	A
第4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	
1 持続可能な経営基盤の確立(目標値あり)	B2
2 業務の見直しによる収支改善	A
第5 その他の業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置	
新市立病院における事業の円滑な推進	A

小項目別の状況

中期目標

第2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

- 1 診療機能
 - (1) 目指す医療
 - ア 救急医療

地域住民が安心できる 24 時間 365 日体制の救急医療の更なる充実を図るため、ER 型の救命救急センターを第 2 期中期目標期間中の早期に整備すること。また、地域の医療機関や消防局との連携を図り、救急医療体制の充実を図ること。

中期計画

第2期中期計画期間中の早期にER型の救命 救急センターの整備に努め、地域住民が安心で きる充実した救急医療を提供する。

また、地域の中核的基幹病院として地域医療機関や消防局との連携を図るとともに救急救命士等の教育も行い、地域の救急医療体制の充実を図る。

年度計画

- ・ ER型の救命救急センターを整備し、救急に 携わるスタッフの育成強化を行うとともに、 看護師など救急部門への適正配置を行う。
- ・ 救急医療に対応する人材が不足している地域 への対応を含めた協議を行うなど、中核的基 幹病院としての役割を果たし、地域住民が安 心できる充実した救急医療を提供する。

【目標値】 (単位:人)

指標	平月	式 28 年	平	成 29 年	平	成 30 年
(暦年)	目標值	実績値 (達成率)	目標値	実績値 (達成率)	目標値	実績値 (達成率)
救急搬送	2, 500	3, 889	3, 500	4, 538	4, 200	4, 228
人数		(155. 6)		(129. 7)		(100. 7)

第2期 中期計画 目標値 (平成31年) 3,300

	H28	H29	Н	30	中期目標」	見込評価
	市評価	市評価	法人自己評価	市評価	法人自己評価	市評価
事業年度 評価結果	4	В3	B 2		Α	

法人の実施状況(自己評価)

長崎市の評価理由・意見など

【中期目標達成状況自己見込評価】

救命救急センター設置に向けて長崎大学と救急 専門医の配置について協議を進め、体制の構築を 図り、長崎県へ救命救急センター設置について申 請を行うこととしている。また、救急に携わる人材 の育成も引き続き実施し、地域住民が安心できる 体制を維持したため、中期目標は達成する見込み である。

【中期目標達成状況見込評価】

【実績】

◇ 救急科医師の充実

継続的に救急医を確保するため組織的なアプローチを強化した結果、平成30年度も引き続き、関東の国立大学附属病院より救急医1名の出向を受入れるとともに、新たに応援医師3名の派遣受入れが可能となり、救急体制の充実が図られた。

◇ 救急患者トリアージの精度向上

救急患者のトリアージ判定においては、JTAS(緊急度判定支援システム)の有効性が立証され平成30年6月からJTASを導入した。このことにより、救急患者受入時の電話での患者重症度判定と実際の重症度レベルの整合性が高くなり、よりスムーズで適切な救急患者受入れが可能となった。

◇ 救急に携わる人材育成

救急に関する講義の定期的な実施や、病棟で BLS研修を実施できるようBLS研修の指導 者を育成した。また、平成30年度も引き続 き、救急救命士の実習を受入れ、救急活動現場 において、傷病者へ迅速かつ的確な救急救命処 置ができるよう、医師による医学知識と技術の 指導や医師との情報連絡を想定した訓練、気管 挿管実習等を行った。

<救急救命士の実習受入>

H30年度:13名

(H29年度:11名、H28年度:7名)

【令和元年度の取組み】

救命救急センター設置に向けて長崎大学と救急 専門医の配置について協議を進めている。また、内 部体制の構築を行い、長崎県へ救命救急センター 設置について申請を行う予定である。

【改善事項】

【改善事項】

第2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

1 診療機能

中期

沿 標

(1) 目指す医療

イ 高度・急性期医療

3大疾病(がん、心疾患、脳血管疾患)等に対応するため、地域の医療機関との連携及び役割分担を行い、地域の中核的基幹病院として使命を果たすこと。

中期計画

3大疾病(がん・心疾患・脳血管疾患)等に対応するため、地域の医療機関との連携及び役割分担を行い、地域の中核的基幹病院としての使命を果たす。

また、複数の疾患を持つ患者等に対応できる ように診療科の枠を超えた医療を提供すると ともに、より身体的負担が少ない手術や検査の 充実、先進医療の実施体制の整備を図る。

年度計画

- ・ 3大疾病(がん・心疾患・脳血管疾患)等に対応するため、地域の医療機関との連携及び役割分担を行い、地域の中核的基幹病院としての使命を果たす。
- ・ 複数の疾患を持つ患者に対応できるように、 診療科の枠を超えた医療を提供するととも に、より身体的負担が少ない手術や検査の充 実、先進医療の実施体制の整備を図る。
- ・ 院内体制が整ったことにより、法的脳死判定 や脳死下臓器提供に対応する。

【目標値】

(単位:件)

	平成	28 年度	平成	29 年度	平成	30 年度
指標	目標値	実績値 (達成率)	目標値	実績値 (達成率)	目標値	実績値 (達成率)
工作从粉	3, 100	3, 417	3, 200	3, 723	3, 500	4, 138
手術件数		(110. 2)		(116. 3)		(118. 2)

第2期
中期計画
目標値
(平成31年度)
3, 500

	H28	H29	Н	30	中期目標	見込評価
	市評価	市評価	法人自己評価	市評価	法人自己評価	市評価
事業年度	4	٨	٨		^	
評価結果	4	A	_ ^		^	

法人の実施状況(自己評価)

長崎市の評価理由・意見など

【中期目標達成状況自己見込評価】

がん治療については、外科的治療、薬物療法、放射線治療、緩和ケア等患者に応じた多様な医療の提供を複数の診療科が連携し行っている。

また、地域がん診療連携拠点病院として、地域の 医療機関や患者・家族へのがんに関する相談、がん 情報の提供、教育を実施している。心疾患・脳血管 疾患については、引き続きホットラインを活用し、 救急医療にも対応している。以上のことから、高 度・急性期医療を提供する地域の中核的基幹病院と しての使命を果たしており、中期目標は達成した。

【中期目標達成状況見込評価】

【参考值】			(単位:件)			
指標	H28 年度	H29 年度	H30 年度			
内視鏡手術等件数	1, 293	1, 351	1, 271			
【実績】					【改善事項】	
個別実績のとおり						
【令和元年度の取組]み】				【改善事項】	
引き続き、高度・流	急性期医療	を提供する	る地域の中	核		
的基幹病院としての	使命を果た	たしていく	0			

中期計画

1 793111

○がん

がん治療については、5大がん(肺がん、胃がん、大腸がん、乳がん、肝臓がん)に対して高水準な診療を提供するとともに専門医等を中心に多職種による専門性の高いチームを組織し、患者により快適な医療提供を図る。

また、治療の困難な原発不明がん、高度進行 がん等に対しては、複数診療科にわたる集学的 治療の提供体制を強化する。

地域がん診療連携拠点病院として、地域医療 圏における急性期の集中的高度医療を提供する 役割を担当するとともに、地域医療圏の人材育 成、患者、家族を含め市民へのがんに関する相 談、がん情報の提供、啓発・教育を実施する。

年度計画

○がん

- ・5大がん(肺がん、胃がん、大腸がん、乳がん、肝臓がん)に対して高水準な診療を提供するとともに、専門医等を中心に多職種による専門性の高いチームを活用し、より適正な医療提供を図る。
- ・治療の困難な原発不明がん、高度進行がん等に対して、複数診療科にわたる集学的治療の提供を検討するキャンサーカンファレンスに地域の医療機関を受け入れ、内容の充実を図っていく。
- ・地域がん診療連携拠点病院としての要件を 満たし、地域医療圏における急性期の集中 的高度医療を提供する役割を担うととも に、地域医療圏の人材育成、患者、家族を含 め市民へのがんに関する相談、がん情報の 提供、啓発・教育を実施する。

法人の実施状況(自己評価)

【参考值】 (単位:件)

指標	平成 29 年度	平成 30 年度
内視鏡手術等件数	1, 351	1, 271

◇ がん

・地域がん診療連携拠点病院としての機能充実

地域がん診療連携拠点病院として、一人ひとりのがん患者に適した治療を行うとともに、「がんチャイルドセミナー(親ががんになった子どもの支援)」や「アピアランスケア商品展示相談会(がん治療の副作用に伴う外見変化をケアする商品の展示や相談)」、「市民公開講座 ブルーリボンキャラバンもっと知ってほしい大腸がんのこと」等、院内外に対してさまざまな視点からがんに関する情報発信を行った。

<平成30年度に実施したイベントの一例>

- ・がんチャイルドセミナー (親ががんになった子どもの支援)
- ・アピアランスケア商品展示相談会 (副作用に伴う外見変化をケアする商品展示 や相談)
- ・大腸がんに関する市民公開講座

指標		H28 年度 実績値	H29 年度 実績値	H30 年度 実績値
がんに関する相談人数 (人)		1, 051	1, 211	1, 189
緩和ケア チーム活動	カンファ レンス・ 回診(回)	74	69	67
	院内研修 (回)	3	2	2
がん手術件数(件)		724	599	683
放射線治療件数(件)		5, 937	5, 037	5, 669
外来化学療法	(件数(件)	2, 134	2, 507	3, 002

・複数診療科にわたる集学的治療の提供

平成30年度も引き続き、複数の診療科や地域医療機関の医師等が参加するキャンサーカンファレンス(週1回)を実施しており、患者の症状に応じた治療方針について、地域在宅復帰後の生活も想定しながら協議を行い、がん治療に対する集学的治療を提供した。

中期計画 年度計画

○心疾患

心疾患については、心臓血管内科・外科医師とともに看護師、コメディカルスタッフが一体となった診療体制で相乗効果を高め高水準の治療体制を維持・向上するとともに引き続き24時間365日救急医療にも対応する。

○心疾患

- ・心臓血管内科・外科において、医師、看護師、 コメディカルスタッフが一体となった診療体 制で相乗効果を高め、高水準かつ最適な治療を 行うとともに心臓血管内科ホットラインなど を活用し、救急医療の充実を図る。
- ・地域の医療従事者を対象とした心不全治療に関する講演会等の開催や、心臓病手帳の活用など心不全治療の地域連携を構築することで、心不全の再発抑制を図る。

○脳血管疾患

脳血管疾患については、脳神経内科・外科医師とともに看護師、コメディカルスタッフが一

○脳血管疾患

・脳神経内科・外科において、医師、看護師、コメ ディカルスタッフが一体となった診療体制を充 体となった診療体制で引き続き24時間36 5日救急医療にも対応する。 実させるとともに、脳神経ホットラインなどを 活用し、救急医療の充実を図る。

法人の実施状況(自己評価)

◇ 心疾患

・救急医療への対応

引き続き、心臓血管内科ホットラインを活用し救急医療に対応している。

・不整脈治療の実施

医師の専門性及び医療機器の充実により治療法の選択肢が広がったことで、患者一人ひとりに 合った最善の不整脈治療を提供している。

・大動脈治療のさらなる強化

平成30年度より、新たに血管内治療、心大血管画像診断を専門とする放射線科医の着任により、 即座にステントグラフト治療、内臓動脈瘤の治療が対応可能となり、高齢で手術が困難であった患 者に対しても治療の選択肢の幅が拡がった。

【参考值】 (単位:件)

指 標	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
急性心筋梗塞手術件数	132	141	115
心臓カテーテル手術等件数	871	724	697

(注1) 急性心筋梗塞手術件数は、診療報酬上「手術」に規定される手技のうち、経皮的

冠動脈形成術・ステント留置術(急性心筋梗塞に対するもの)、経皮的冠動脈形成術・

ステント留置術(不安定狭心症に対するもの)等の合計算定件数

(注2)心臓カテーテル手術等とは、経皮的冠動脈形成術、経皮的冠動脈ステント留置術、

経皮的カテーテル心筋焼灼術、体外ペースメーキング術、ペースメーカー移植・交換術をいう。

◇ 脳血管疾患

・地域脳卒中センターの指定

脳神経ホットラインの運用、救急患者への対応が可能なことから、長崎県から「地域脳卒中センター」の指定を受けた。今後も脳卒中支援病院や地域の医療機関、救急隊と連携し、地域の脳卒中急性期診療の中核となる医療機関として役割を果たしていく。

・救急医療への対応

引き続き、脳神経ホットラインを活用し、脳神経内科・外科が連携して救急医療に対応している。

・チーム医療の推進

引き続き、脳神経内科・外科の合同カンファレンスを毎朝実施するとともに、症例検討や勉強会を毎週行い、医師、看護師、薬剤師、リハビリテーション部、医療ソーシャルワーカー等の多職種連携によるチーム医療を推進している。

第2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

1 診療機能

期目標

(1) 目指す医療

ウ 小児・周産期医療

地域周産期母子医療センターとして、地域の医療機関との連携及び役割分担を行い、小児・周産期医療の充実に引き続き努めるとともに、人材育成を含め、住民が安心できる継続的な医療提供体制の構築に取り組むこと。

中期計画

地域周産期母子医療センターとして、地域の 医療機関との連携及び役割分担を行い、ハイリスク出産への対応や新生児・未熟児医療を行い、 小児・周産期医療の充実に引き続き努め、安心し て子どもを産み育てられる環境の整備に寄与す るとともに、長崎大学病院等とも連携して小児・ 周産期医療を担う人材育成に取り組む。

年度計画

- ・地域周産期母子医療センターとして、地域の医療機関との連携及び役割分担を行い、ハイリスク出産への対応や新生児・未熟児医療を行い、小児・ 周産期医療の充実に引き続き努める。
- ・長崎大学病院等とも連携し、小児・周産期医療を 担う人材育成に取り組む。
- ・新生児内科を新設し、体制を構築することで、32 週未満の未熟児の受入れも行う。

	H28	H28 H29 H30 中期目標見込評価		H30		見込評価
	市評価	市評価	法人自己評価	市評価	法人自己評価	市評価
事業年度 評価結果	3	В1	Α		Α	

法人の実施状況(自己評価)

長崎市の評価理由・意見など

【中期目標達成状況自己見込評価】

地域周産期母子医療センターとして、ハイリスク出産や未熟児に対して適切に対応していることに加え、平成30年度より新生児内科を新設し、よりリスクの高い32週未満の未熟児への対応も可能となった。

以上のことから、住民・地域医療機関が安心できる医療提供体制を構築し、小児・周産期医療の充実を図ったことにより中期目標を達成していると判断した。

【中期目標達成状況見込評価】

【実績】

◇ 地域周産期母子医療センターとしての役割 ハイリスク出産や未熟児に対して適切に対応 するため、引き続き、地域の医療機関や総合周 産期母子医療センターと連携し、安心できる医 療提供体制を維持した。

また、平成30年度より32週未満の早産児や低出生体重児、32週以降の成熟児でも合併症のある児を対象とした新生児医療を行う新生児内科を新設し、小児・周産期医療の充実を図った。

<NICU 受入件数>

H30 年度:175 人

(H29年度:156人、H28年度:131人)

<母体搬送受入件数>

H30年度:93人

(H29年度116人、H28年度:75人)

◇ 人材育成

・院内外での研修会等の実施

平成30年度は、長崎県産婦人科医会との共催で、産婦人科医師、医療従事者(看護師・助産師)等を対象に周産期医療講演会(演題:周産期医療とりわけ新生児医療の進歩と課題)を実施した。

また、当院のNICU・GCU スタッフ、助産師を中心に新生児の蘇生法・呼吸管理・栄養管理・体温管理・感染管理のレクチャー(年間 100 回以上)や院外の医療従事者を含めての研修会も実施し、小児・周産期医療を担う人材育成を行うことで、住民が安心できる継続的な医療提供体制の構築に取り組んだ。

【参考值】 (単位:件)

指標	H28 年度	H29 年度	H30 年度
分べん件数	307	354	317

【令和元年度の取組み】

令和元年度には NICU 病床の拡充による早産 児・未熟児への対応を強化し、小児・周産期医療 の充実に引き続き努める。

【改善事項】

【改善事項】

第2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

1 診療機能

期目

(1) 目指す医療

工 政策医療

民間医療機関での対応が難しい結核及び感染症医療については、引き続き現在の役割を堅持するとともに、新型インフルエンザ等の感染症発生時においては、行政や関係医療機関と連携を図り、速やかな対応を行うこと。

また、災害発生時において、行政や地域の医療機関と連携し、災害拠点病院として患者の受入れを行い、医療救護活動等を実施するとともに、他の自治体等において大規模 災害が発生した場合は、医療救護活動の支援に努めること。

さらに、透析医療についても、引き続き実施すること。

中期計画

災害発生時において行政や地域の医療機関と連携し、災害拠点病院として患者の受入れを行うとともに、医療救護活動等を実施する。そのために、平時においてもマニュアルの整備や訓練等に積極的に取り組む。また、他の自治体等において大規模災害が発生した場合は、長崎DMAT(災害派遣医療チーム)を被災地に派遣するなど医療救護活動の支援を行う。

結核医療及び感染症医療については、引き続き役割を堅持し、新型インフルエンザ等の感染症発生時においては、行政や関係医療機関と連携を図り、速やかな患者受入れや拡大防止等の対応を行う。

また、透析医療についても引き続き実施する。

年度計画

- ・災害発生時においては、行政や地域の医療機関 と連携し、災害拠点病院として患者の受入れを 行うとともに、医療救護活動等を実施する。
- ・他の自治体において大規模災害が発生した場合は、長崎DMAT(災害派遣医療チーム)を 被災地に派遣するなど医療救護活動の支援を 行う。
- ・BCP(※)マニュアルを策定し、BCPマニュアルに即した災害訓練を実施するとともに、 災害用備蓄の充実にも努める。
- ・結核医療及び感染症医療については、引き続き 役割を堅持し、新型インフルエンザ等の感染症 発生時においては、行政や関係医療機関と連携 し、速やかな患者受入れや拡大防止等の対応を 行う。
- ・透析医療についても、引き続き実施する。

(※)BCP (Business continuity planning)とは、震災などの緊急時に低下する業務遂行能力を補う非常時優先業務を開始するための計画で、遂行のための指揮命令系統を確立し、業務遂行に必要な人材・資源、その配分を準備・計画し、タイムラインに乗せて確実に遂行するためのもの。

	H28	H29	H30		中期目標	見込評価
	市評価	市評価	法人自己評価	市評価	法人自己評価	市評価
事業年度 評価結果	4	Α	Α		Α	

法人の実施状況(自己評価)

長崎市の評価理由・意見など

【中期目標達成状況自己見込評価】

【中期目標達成状況見込評価】

結核医療・感染症医療・透析医療を継続的に維持している。また、災害発生時には災害拠点病院としてDMATの派遣や、行政や地域の医療機関と連携した患者の受入れを行える体制を整えている。

以上のことから、政策医療を着実に実施している ため、中期目標を達成していると判断した。

【実績】

- ◇ 職員の肺結核発症への対応
- ・行政と連携した迅速な対応

長崎市や保健所、医師会、地域の医療機関等と 連携し、ガイドラインに即した迅速な接触者健康 診断の実施及び情報発信を行った。

- ◇ 災害発生時における患者受入れ及び連携
- ・BCPマニュアルの策定及び災害訓練の実施

平成 30 年度は、策定したBCPマニュアルに基づき、平日の日勤帯に大規模地震(震度6弱)が発生するという想定で約 30 名の模擬患者を設定し、災害訓練を実施した。災害訓練には、長崎大学病院と済生会長崎病院のDMAT隊も参加し対策本部の運営・情報伝達の方法等について更なる改善を図った。

<u>・DMAT活動</u>

- ・(継続)長崎県・市の防災訓練へ参加
- ・平成30年度は長崎大学病院の災害訓練に参加
- ・平成30年度は、南海トラフを想定した大規模地 震時医療活動訓練に参加(全国一斉実施)
- ・平成30年度に初めて衛生通信訓練を実施
- ◇ 結核医療及び感染症医療の実施 引き続き、結核及び感染症の医療体制を維持した。
- ◇ 透析医療の実施 引き続き、透析医療も継続して実施した。

【改善事項】

_

[参考値]

指標	H28 年度	H29 年度	H30 年度
災害訓練の実施回数	年1回	年1回	年1回
長崎DMATチーム数	1 チーム	2 チーム	1チーム

[参考值] (単位:人)

指標		H28 年度	H29 年度	H30 年度
感染症患者数	入院	0	0	0
	入院	1, 746	1, 314	938
結核患者数	※ 1	8	8	6
	 2	7	8	6
*****	入院	2, 090	2, 195	1, 774
透析患者数	外来	11, 512	10, 318	9, 375

※1:1日最大入院患者数 ※2:1日最大排菌患者数

【令和元年度の取組み】

引き続き、結核・感染症医療を行うとともに、災害拠点病院としての機能を発揮できるよう体制を整えていく。

【改善事項】

中期目標

第2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

1 診療機能

(2) 地域医療への貢献と医療連携の推進

地域の医療機関との連携・協力体制の更なる充実を図るとともに、地域医療支援病院として地域医療に貢献するため、診療情報の共有化を図りながら、地域ネットワークの中心的役割を担うこと。また、地域包括ケアシステムの構築の流れの中で、病院機構が目指す役割を果たすとともに、地域の医療機関や介護施設等とも連携を図ること。

中期計画

地域医療支援病院として、地域の医療機関との連携・協力体制を充実するための活動を積極的に行い、地域で完結する切れ目のない地域連携を推進し地域医療に貢献する。併せて、地域の医療従事者に対する研修会も積極的に行う。

また、地域の医療機関だけでなく介護関連施設等とも連携し、構築が進められている地域包括ケアシステムにおいても地域の中核的基幹病院としての役割を果たす。

年度計画

- ・地域医療支援病院としての要件を満たす。
- ・地域包括ケアシステムの中で、地域の中核的医療機関である当院が、入院前から在宅復帰を見据えた支援を強化し、患者がスムーズに在宅復帰できるよう、医療連携センターを中心に地域の医療機関や地域包括支援センター、福祉介護施設等と勉強会等を通じて、情報交換や退院支援の課題共有を行う。
- ·紹介率、逆紹介率は前年度実績を上回るよう努める。

【目標值】

	平成 28 年度		平成	29 年度	平成 30 年度		
指標	目標値	実績値 (達成率)	目標値	実績値 (達成率)	目標値	実績値 (達成率)	
紹介率	50. 0	62. 3	50. 0	64. 9	50. 0	75. 8	
(地域医療支援病院)	以上	(124. 6)	以上	(129. 8)	以上	(151. 6)	
逆紹介率	70. 0	95. 3	70. 0	102. 3	70. 0	131. 8	
(地域医療支援病院)	以上	(136. 1)	以上	(146. 1)	以上	(188. 3)	

第 2 期 中期計画 目標値 (平成 31 年度) 50.0 以上 70.0 以上

	H28	H29	H30		中期目標	見込評価
	市評価	市評価	法人自己評価	市評価	法人自己評価	市評価
事業年度 評価結果	4	Α	Α		Α	

法人の実施状況(自己評価)

長崎市の評価理由・意見など

【中期目標達成状況自己見込評価】

地域医療支援病院としての当院の役割は、専門治療を行うために地域医療機関(かかりつけ医)からの紹介患者を主に診療することであり、この役割を示す指標の1つである紹介率・逆紹介率は年々上昇している。また、さらなる連携強化とかかりつけ医の推進を図る体制づくりを行い、地域ネットワークの中心的役割を果たしている。

【中期目標達成状況見込評価】

以上のことから、地域包括ケアシステムの構築 に向け当院の役割を果たしており、中期目標は達 成していると判断した。

【実績】

- ◇ 地域医療支援病院としての役割の保持
- ・連携医制度の整備

平成30年度は、地域の医療機関と今後さらに連携を進めていくため、新たに「連携医制度」を整備し、適切な役割分担のもと患者により良い医療を提供した。

- <連携医制度活用による連携医のメリット>
 - ①開放型病床の利用
 - ②迅速な受入対応
 - ③優先的な逆紹介
 - ④リーフレットによる病院紹介
 - ⑤ホームページ・広報誌での紹介
 - ⑥各種案内の送付
 - ⑦当院での診察時の駐車場無料
- ◇ 地域包括ケアシステムの構築に向けた取組み
- ・他病院との合同研究会やカンファレンスの実施

引き続き、当院のスタッフ、在宅医、ケアマネージャー、訪問看護師、福祉用具担当者等の在宅スタッフが集まり、患者と家族と共に病状や日常生活での留意点等の情報共有を行い、退院後も不安なく療養できるよう支援を行っている。

また、病院間の連携強化・顔の見える関係を構築し、退院後に患者が望む生活を実現するため 各所属で事例検討会や研究会を実施した。

<退院前合同カンファレンス件数>

H30年度:77件(H29年度:84件)

<介護支援連携件数>

H30年度:293件(H29年度:159件)

【改善事項】

[参考値(地域医療支援病院関係)]

指標	H28 年度	H29 年度	H30 年度
地域医療講演会開催回数(回)	14	30	23
地域医療講演会参加人数(人)	808	1, 051	589
医療福祉相談 件数(件)	3, 583	3, 989	4, 193

[参考値(あじさいネット関係)]

指標	H28 年度	H29 年度	H30 年度
登録施設数(施設)	121	139	139
登録人数(人)	3, 617	4, 524	5, 603
紹介数(人)	1, 824	2, 140	2, 516
アクセス件数(件)	81, 915	126, 576	180, 297

※H21 年11 月からの累計値

【令和元年度の取組み】

引き続き、地域医療支援病院としての役割を果たすとともに、地域包括ケアシステムの構築に向けて医療機関、介護施設等との連携を図っていく。

【改善事項】

第2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

1 診療機能

中期目標

(3) 安全安心で信頼できる医療の提供

ア 情報の共有化とチーム医療の推進

医師をはじめとした医療スタッフが関わる医療情報の一元管理を図り、各スタッフが 共通認識の下でチーム医療を推進すること。

イ 医療安全対策の充実

医療安全に関する情報の収集・分析を行い、医療安全対策の充実を図ること。また、 全職員が医療安全に対する知識の向上に努め、適切に行動すること。

ウ 院内感染防止対策の実施

院内感染防止に関する教育、訓練及び啓発を徹底するとともに、問題点を把握し、改善策を講ずる等の院内感染防止対策を確実に実施すること。

	H28	H29	H30		中期目標見込評価	
	市評価	市評価	法人自己評価	市評価	法人自己評価	市評価
事業年度 評価結果	3	B 2	Α		Α	

\\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	
法人の実施状況(自己評価)	長崎市の評価理由・意見など
【中期目標達成状況自己見込評価】	【中期目標達成状況見込評価】
医療情報システムの更新に伴う情報の共有化や、一元管理を効果的に行い、チーム医療を推進している。 また、医療安全研修会や感染対策研修会の受講率を上げるなど、職員の意識向上を図り、適切かつ確実に医療安全・感染対策を実施している。 以上のことから、安全安心で信頼できる医療を提供しており、中期目標は達成していると判断した。	
【実績】	【改善事項】
個別実績のとおり	_
【令和元年度の取組み】	【改善事項】
引き続き、チーム医療を推進するとともに、医療安全対策・院内感染防止対策を確実に実施できるよう教育、訓練、啓発を実施していく。	

ア 情報の共有化とチーム医療の推進

	##	= 1	. Table
ш	80	=+	- 1891

医師をはじめとした医療スタッフが関わる医療情報の一元管理やカンファレンスの実施により、各スタッフが共通認識をもったうえで専門性を発揮し、互いに連携・補完し合うチーム医療を推進する。

また、各種医学管理・指導を徹底することで、質の高い医療の提供を行う。

年度計画

- ・ 診療科及び各種チームによるカンファレンスを充実させ、医療情報の一元管理により、医師及び各スタッフが共通認識をもったうえで専門性を発揮し、互いに連携・補完し合うチーム医療を推進する。
- ・ 各種医学管理・指導を徹底することで、質 の高い医療の提供を行う。

実施状況(判断理由)

◇ 医療情報の一元管理・共有化

平成30年度に、平成24年度から使用している医療情報システムの更新を行った。更新にあたっては、現場の声(要望)を集約し利便性・効率性の向上を図り、情報の共有化や一元管理をより効率的に行えるようになった。

< 医療情報システム更新による機能強化の例>

- ・内服カレンダー機能の掲載により、入院患者に対する内服の指示・実施をカレンダー形 式で容易に確認することが可能になった。
- ・医療情報の一元管理を図るため、各職種が記入する個別の患者記録シートを連携させる機能を加え、各自入力していた共通項目の情報が自動入力されるようシステムを構築したことで、効率性と安全性が向上した。

◇ チーム医療の推進

患者の容態に合わせ、多職種による専門的な視点から、より効果的な治療計画を立てていくために、平成30年度も引き続き、多職種が参加するカンファレンスを定期的に行った。

<多職種で構成されたチーム>

NST (栄養サポートチーム)、ICT (院内感染防止対策チーム)、緩和ケアチーム、摂食嚥下チーム、DST (認知症サポートチーム)、褥瘡対策チーム、糖尿病チーム、DMAT災害派遣対策チーム

◇ 質の高い医療の提供

引き続き、患者の様態や治療計画に沿った栄養指導やリハビリ指導、薬剤管理指導など多角的に行うことで質の高い医療の提供につなげた。

イ 医療安全対策の充実

中期計画

医療安全委員会及び各所属のリスクマネジャーを中心として、ヒヤリハット事例などを積極的に報告する組織風土を醸成するとともに、報告は適切に分析し対策を講じるなど、安全風土の醸成・安全対策の充実を図る。

また、職員の医療安全に対する知識向上のため、リスクマネジャーを通じた情報提供や多様な職種に対応した研修会の開催などに努めると

年度計画

- ・ 全ての職員の医療安全に対する認識を深め、全 部門からのヒヤリハット事例の報告を増やし、 適切にその事例の分析を行い、対策を講じる。
- ・ 職員の安全意識の啓発を図るため、医療安全に 関する情報提供や、多様な職種に対応した研修 会を開催し、100%の受講率を目指す。
- ・ 定期的に院内ラウンドチェックを実施することにより、各種マニュアルの遵守状況及び潜在 的リスクの把握を行うとともに、結果をフィー

ともに、定期的な院内ラウンドチェックなどに より安全を意識した行動の定着を図る。

医薬品及び医療機器に関する安全管理についても、チェック体制の強化や安全器材の導入、 研修会の開催などにより充実を図る。 ドバックすることで、安全を意識した行動の定着を図る。

- •
- ・ 医療安全管理マニュアルを適宜見直し、職員に対して周知・啓発を図るとともに、参照・活用しやすいマニュアルづくりに努める。
- ・ 医薬品及び医療機器について、チェック体制の 強化や安全器材の導入、研修会の開催などによ り、安全な管理体制を整える。
- ・ 地域の医療機関を対象とした医療安全研修会 を開催し、地域全体で医療安全に対する意識の 向上に努める。

実施状況(判断理由)

◇ 医療安全に対する意識強化

引き続き、ヒヤリハット報告の促進と、全職員に対する医療安全研修会の実施等を継続的に行うことで医療安全に対する意識強化に努めている。

<職員1人当たりのヒヤリハット報告件数>

H30 年度: 1.85件(H29年度: 1.84件、H28年度: 1.81件)

<研修会受講率>

H30 年度: 97.7%(H29 年度: 95.3%、H28 年度: 93.3%)

◇ 処方箋への検査値記載の開始

平成30年度から、処方箋に検査値を記載することで、保険薬局の薬剤師が患者一人ひとりに合った薬の用量、効果や副作用を確認でき、さらに安全で質の高い薬物療法の実現につながるよう努めている。

◇ 医療安全管理マニュアルの徹底、改善

引き続き、マニュアルの周知徹底を図るとともに、マニュアルに沿ったシミュレーションを継続的に実施している。平成30年度は、産科における勤務時間外に発生した危機的出血を事例とし、人員が少ない時間外にいかに対応するかをポイントに実施した。

◇ 医薬品及び医療機器等の安全な管理体制の維持

機器が安全に使用できるよう日々の操作・点検を実施するとともに、医薬品に関する疑義照会等を毎月集計し薬剤師間の情報共有や薬物療法の問題点の抽出に活用し、薬剤部から各部署へ医薬品関連の注意喚起を行っている。医薬品の管理に関しても、平成30年度は棚卸時に薬剤部が差異分析を行い、日々入出庫管理の改善を進めている。

◇ 医療安全相互評価の実施

連携する他病院と相互評価(訪問評価)を行い、当院の医療安全管理上の問題点等を客観的に把握したことで医療安全の質の向上につながった。

「参考値」(単位:回)

指標	H28 年度	H29 年度	H30 年度
医療安全委員会開催回数	12	44	48
医療安全研修実施回数	47	49	40

ウ 院内感染防止対策の実施

中期計画

感染制御センター及び院内感染対策委員会、院内感染防止対策チームを中心とした活動を行うとともに、多様な職種に対応した研修会の開催などに努め、院内感染防止対策を確実に実施する。院内感染防止対策チームにおいては、定期的な院内ラウンドチェックを実施し、院内感染の未然防止・早期発見に努める。

年度計画

- ・ 院内感染防止に関するマニュアルを適宜見直し、職員に周知・啓発を図る。
- ・ 定期的な院内ラウンドチェックを実施し、院内感染の未然防止・早期発見に努める。
- ・ 地域の医療機関や行政との定期的な情報共 有を行い、効果的な感染対策を実施する。
- ・ 多様な職種に対応した研修会の開催で、受講率 100%を目指し、院内感染防止対策を確実 に実施する。

実施状況(判断理由)

- ◇ 院内感染防止対策の実施
- ・感染防止対策委員会の定期的な実施

院内の感染予防対策の方針決定や監視、感染発生時の対応や感染予防に対する職員への教育等を行うため、各部門の代表者を構成委員とした感染防止対策委員会を月1回実施した。また、感染防止について院内精度の維持・向上を図るため、毎年全職員対象の研修会を実施している。

< H30 年度研修テーマ>

「肺炎の治療と予防一成人肺炎診療ガイドライン 2017 をふまえて一」 「薬剤耐性(AMR)と抗菌薬の使い方」

<受講率>

H30年度:98.9%(H29年度:93.2%、H28年度:94.4%)

◇ 院内ラウンドチェック(巡回)の実施

委員会の下部組織である感染防止対策チーム(ICT)で、委員会の方針に沿った感染管理計画の実施及び評価を行い、患者又は職員等の安全を確保するため、院内ラウンドを週1回実施し、必要に応じてマニュアルの見直し等を引き続き行っている。また、薬剤耐性菌をもつ患者への感染対策が適正であるかについても引き続きラウンドチェックを行っている。

◇ 近隣病院との連携

抗菌薬の適正使用や耐性菌の伝播予防のために連携病院とカンファレンスを行い、状況把握や日々の予防改善に努めている。また、平成30年度も引き続き、連携する他病院と相互評価を行い、問題点を客観的に把握することで感染予防の質を高めた。

◇ 院内感染対策マニュアルの改定・周知

引き続き、院内感染対策マニュアルを見直し、改定を適宜行い、職員へのマニュアルの周知に努めている。

◇ 職員の肺結核発症時の対応

指 標

職員の肺結核発症時には、臨時の拡大感染対策委員会を設置し、接触者健康診断の手引き に遵守した迅速かつ適切な対応を行った。

H28 年度

12

55

[参考值]

感染防止対策

感染防止対策

研修実施回数

委員会開催回数

	(単位:回)
H29 年度	H30 年度
12	12

51

33

32

第2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

1 診療機能

中期目標

(4) 公立病院としての役割の保持

ア 外国人への医療の提供

長崎の玄関口となる長崎港に接する立地であることから、国際観光都市として、長崎を訪れる外国人観光客等が安心して医療を受けられる体制を整えること。

イ 県・市の福祉保健部門等との連携推進

県·市の福祉保健部門をはじめとした関係機関と連携し、必要な医療の提供と市民の健康増進を図ること。

	H28	H29	H30		中期目標見込評価	
	市評価	市評価	法人自己評価	市評価	法人自己評価	市評価
事業年度 評価結果	3	Α	Α		Α	

法人の実施状況(自己評価)	長崎市の評価理由・意見など
【中期目標達成状況自己見込評価】	【中期目標達成状況見込評価】
 職員による通訳(英語·中国語·韓国語)や通訳	
機器を設置し、外国人観光客等へ 24 時間安心して	
医療を受けられる体制を整備している。	
また、行政と連携し、公民館での健康講座の実施	
や、健康イベントへの参加等、市民の健康増進を図	
る取り組みも実施している。	
さらに、災害時の対応については、関係機関との	
連携推進による対応を強化していることから、公	
立病院としての役割を維持しており、中期目標を	
達成していると判断した。	
Frinds 1	「小女士·女】
【実績】 個別実績のとおり	【改善事項】
(令和元年度の取組み)	
【17年76年及の玖旭05』	【以言学失】
│ │ 引き続き、外国人が安心して医療を受けられる│	
体制を維持するとともに、県・市等の関係機関と連	
携し必要な医療の提供と市民の健康増進を図るな	
ど、公立病院としての役割を果たす。	

ア 外国人への医療の提供

中期計画	年度計画
職員の語学力向上、通訳の体制、院内案内版等の	・国際観光都市の公立病院として、外国人観光客
外国語併記、外国語パンフレットなど、国際観光都	等が安心して医療を受けられるよう、通訳を介
市の公立病院として外国人観光客等が安心して医	した対応だけでなく、通訳機器等を利用し、よ
療を受けられる体制を整備する。	りスムーズな受入れを行う。

実施状況(判断理由)

◇ 外国人観光客等に対する院内体制の整備

外国人患者数は年々増加しており、通訳機器の利用及び職員による通訳対応(英語・中国語・韓国語)もそれに伴い増えてきている。通訳機器は常時救急外来に設置し、緊急時の対応の際や通訳者の勤務時間外にて活用し、利用実績も前年比 25 件増加(平成 29 年 23 回、平成 30 年 48 回)した。

また、平成30年度は産科にかかる外国人患者が増加しており、出産時の注意事項や検診、出産してからの予防接種、健診等の文書の翻訳を行い、日本語が分からない患者でも安心して出産できる環境整備に取り組んでいる。

さらに、平成30年度には入院案内の英語版を作成し、患者·家族が安心して入院生活を送れるようサポートしている。

[参考値] (単位:人)

指標	H28 年度	H29 年度	H30年度
外 延入院患者数 国 ()内は実数	37 (8)	112 (13)	140 (13)
人 患 延外来患者数 者 ()内は実数 数	74 (57)	88 (61)	144 (112)

(注)院内通訳(当院職員)が対応した外国人患者

イ 県・市の福祉保健部門等との連携推進

中期計画	件度計画
県・市の福祉保健部門をはじめとした関係機	・ 県、市の福祉保健部門をはじめとした関係機関
関と連携し、各種会議等も含めた情報共有や協	と連携し、地域医療の充実、各種検診の啓発・
議を行い、地域医療の充実、各種検診の啓発・充	充実、災害等の非常時における避難施設として
実、災害時の対応など市民の命と健康を守るた	の対応など、市民の命と健康を守るための役割
めの役割を果たす。	を果たす。

実施状況(判断理由)

- ◇ 関係機関との連携推進による地域医療の充実
- ・平成30年度も引き続き、長崎県及び長崎市主催の会議(長崎市地域保健医療対策協議会、 長崎医療圏病院群輪番制審議会、長崎市地域医療審議会、長崎区域地域医療構想調整会議 等)に参加し、地域医療の充実に向け検討した。
- ・平成30年度も引き続き、公的なイベント(「被爆73周年長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」、「ながさきエコライフ・フェスタ2018」等)において、医師、看護師等を派遣し、急病者等の救護業務に従事した。
- ・平成30年度は、長崎県医師会からの依頼で「カザフスタン共和国医療会議所東カザフスタン支部代表団」の病院視察受入れを行った。
- ・公民館講座の開催

< H30 年度実施全 15 回の一例>

「認知症について(南公民館)」

「減塩、夏バテ・低栄養予防について(西北・岩屋ふれあいセンター)」

「大動脈瘤・大動脈解離について(中央公民館)」

- 「①お薬の常識、再認識してみましょう
- ②いる?いらない?最新の抗菌薬の考え方
- ③薬剤師の仕事、ご存じですか? (北公民館)」
- ◇ 関係機関との連携推進による災害時の対応強化
- ・ 引き続き、長崎県の自治体病院及び長崎大学病院関連病院長会の会員とネットワーク協定を維持した。
- 引き続き、長崎県・市の防災訓練に当院DMATが参加した。
- ・ 引き続き、当院の災害訓練へ長崎市消防局、長崎市医師会看護学生等が参加し連携を図った。

第2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

- 2 住民・患者の視点に立った医療サービスの提供
- (1) 患者中心の医療の提供

電子カルテシステムをはじめとした医療情報システムを最大限に活用し、患者中心の医療の提供を行うとともに、看護体制を充実するなど、きめ細やかな患者サービスを実施すること。

中期計画

電子カルテシステムなどの医療情報システムの活用により、多職種が保有する患者情報を共有するとともに、患者用クリティカルパスの活用、インフォームド・コンセントの充実・徹底を図り、患者中心の医療の提供を行う。また、看護体制とともにコメディカルスタッフの体制も充実させ病棟配置する等、多方面でのきめ細やかな患者サービスの実施に努める。

更に在院日数が短縮していくなか、早期に退院·転院等が困難な患者の支援策として、地域包括ケア病棟設置の検討や退院支援の充実を図る。

年度計画

- ・ 認知症患者が安心できる環境で、適切な治療を受けられるよう、認知症サポートチームの活動を充実させるなど、多方面でのきめ細やかな患者サービスの実施に努める。
- ・ クリティカルパスの活用やインフォームドコン セントの充実、チーム医療の向上を図り、患者中 心の医療の提供を行う。

【目標值】

法人の実施状況(自己認価)

	平成	28 年度	平成 29 年度		平成 30 年度	
指標	目標値	実績値 (達成率)	目標値	実績値 (達成率)	目標値	実績値 (達成率)
クリティカルパス	45. 0	48. 2	47. 0	52. 0	49. 0	55. 4
(適用率)		(107. 1)		(110. 6)		(113. 1)
患者アンケートに	85. 0	82. 9	85. 0	86. 3	85. 0	86. 8
よる満足度の向上 (やや満足以上)		(97. 5)		(101. 5)		(102. 1)

平成 31 年	度
目標値	
50). 0
85	5. 0

	H28	H29	H30		中期目標	見込評価
	市評価	市評価	法人自己評価	市評価	法人自己評価	市評価
事業年度 評価結果	3	Α	Α		Α	

- 長崎市の誕価理由・音目など

公人以天旭认从(自己计画)	交响中の計画性由・息光など
【中期目標達成状況自己見込評価】	【中期目標達成状況見込評価】
医療情報システムを活用し、クリティカルパス	
の運用やインフォームド・コンセントを充実させ、	
患者・患者家族へのよりきめ細やかな医療の提供	
を推進している。また、認知症サポートチームの設	
置や、薬剤師・コメディカルの病棟配置などにより	

患者中心の医療を提供していることから、中期目標は達成していると判断した。

【実績】

◇ 急性期病院における認知症患者への取組み

・よか余暇会の設置

平成30年度に、認知症患者の看取りや介護施設勤務を経験した方をボランティアとして招き「よか余暇会(認知症患者への寄り添い活動)を設置したことにより、身体抑制の時間が短縮され、精神状態の安定化等に効果がみられた。

◇ クリティカルパスの活用

引き続き、クリティカルパスを用い、良質な 医療を効率的かつ安全、適正に提供するととも に診療計画を事前に説明することで、入院患者 やその家族が安心して診療を受けられる体制を とっている。また、クリティカルパスの検証や 改善も行っており、その効果等については委員 会での定期報告に加え全職員対象のクリティカ ルパス大会を開催し、周知を行っている。

◇ IC(インフォームドコンセント)の取組み IC指針に則り、常に患者の意思が尊重され るような医療の提供を行っている。

さらに、よりきめ細やかな医療の提供を行うために、看護師の | C同席有無に関わらず、 | Cを行ったら必ず看護師が | Cの記録をつけるよう手順に加えた。

このことにより、患者が医師の説明を適切に 理解しているか、どのような点を不安に思って いるか等を医療スタッフが共有でき、患者のケ アに役立てている。

また医療者側も、患者に説明する際の注意点 を再確認でき | C時の説明の質向上にもつなげ ている。

【令和元年度の取組み】

引き続き、患者中心の医療の提供を行うととも に、患者ニーズへのきめ細やかな対応を行ってい く。

【改善事項】

第2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

- 2 住民・患者の視点に立った医療サービスの提供
 - (2) 住民・患者への適切な情報発信

市立病院の役割や機能等について、パンフレット、ホームページ等を活用し、適切な情報 提供を積極的に行うこと。

中期計画

病院の役割や機能、各疾患の治療内容、手術等の実績など、住民・患者が求める情報をホームページ、パンフレット、情報誌などの媒体を通じて適切に情報提供を行うとともに、健康教室なども積極的に行い、顔が見える中での情報発信も行う。

年度計画

地域イベントへの参加や意見交換会等を通して、住民・患者をはじめ、地域との顔の見える関係を構築し、住民・患者が求める情報を発信する。

また、市立病院として、病院機能や役割、健康に関する住民・患者への教育、啓蒙活動も積極的に実施する。

	H28	H29	H30		中期目標	見込評価
	市評価	市評価	法人自己評価 市評価		法人自己評価	市評価
事業年度 評価結果	3	B 2	Α		Α	

法人の実施状況(自己評価)

長崎市の評価理由・意見など

【中期目標達成状況自己見込評価】

当院の役割や機能、健康講座まで幅広い情報を 様々な媒体を通して発信している。

また、ホームページ担当者を各部署に配置し、発信する情報を見直す仕組みを作ったことにより、 定期的な更新と最新の情報を掲載できるようになった。

以上のことから、住民・患者への適切な情報発信を行っており、中期目標は達成していると判断した。

【中期目標達成状況見込評価】

【実績】

◇広報誌・ホームページ等による病院情報の発信 引き続き、広報誌では、住民アンケートでの 住民からの要望と病院の特徴を踏まえた情報の 発信を行った。広報誌の定期購読者は、主に口 コミなどで昨年度より118名増加し、256名に 拡大している。平成30年度は、各部署にホー ムページ担当者を配置し、情報を収集すること

- で、定期的な更新を行うなど、更新作業を定期的に行えるよう運用の仕組みを見直した。

また、平成30年度よりラジオ番組を活用した情報発信も行っている。平成29年度も参加した地域イベントのNIB主催 DEJIMA博では、病院間の連携強化のため、回復期病院と協力し、お仕事体験コーナーを設置した(約300名が体験)。

◇ 社会への情報発信(危機管理の広報)

平成30年10月に発覚した免震装置の不正、同年11月に発覚した職員の肺結核発症について、関係部署と連携し、患者・住民・職員・関係機関に対して、ホームページ・院内ポスター・メディア等を活用し、迅速に情報発信を行った。また、上記対応経験をもとに、危機管理時の広報のマニュアルの整備を行った。

[参考値] (単位:回)

指標	H28 年度	H29 年度	H30 年度
34 123	実績値	実績値	実績値
情報誌発行回数	12	12	9
患者・家族向け (院内)	8	8	6
住民・医療機関向 け(院外)	4	4	3
ロビーコンサート等 の開催回数	2	11	9
市民向け講演会 開催回数	26	20	28

【令和元年度の取組み】

引き続き、住民・患者をはじめ地域との顔の見える関係を構築し、適切な情報提供を積極的に行っていく。

第2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

- 2 住民・患者の視点に立った医療サービスの提供
 - (3) 患者ニーズへの対応の迅速化

患者ニーズをいち早く把握し、柔軟かつ迅速な対応を行うこと。

中期計画

患者アンケートやご意見箱等により、患者ニーズを把握し、必要な改善を適宜行うとともに、ボランティアスタッフの意見も積極的に取り入れ患者視点に立った病院づくりを進める。

年度計画

- ・外来待ち時間の短縮及び待ち時間を有効活用 できるような取り組みを実施する。
- ・患者の利便性を考慮した診療費等の支払方法の 多様化の検討を行う。
- ・患者の声を直接聞き、意見を反映させるための患者モニター制度や、患者アンケート、ご意見箱による患者ニーズを把握し、必要な改善を行う。
- ・がん等の長期療養者に対する就労支援を行う。
- ・患者ニーズに対応した女性専用の外来(マーメイド外来)等の専門外来の充実を図る。

	H28	H29	H30		中期目標	見込評価
	市評価	市評価	法人自己評価	市評価	法人自己評価	市評価
事業年度	2	^	^		^	
評価結果	3	_ ^	^		A	

法人の実施状況(自己評価)

長崎市の評価理由・意見など

【中期目標達成状況自己見込評価】

患者アンケート等を活用した患者ニーズへの対応だけでなく、第三者機関(日本医療機能評価機構)により患者中心の医療を行っているか、良質な医療を行っているか等のチェックを受け一定の水準に達していると評価された。

以上のことから、患者の視点に立った病院づくりを推進し、第三者からも一定の水準に達していると評価されたことから中期目標を達成していると判断した。

【中期目標達成状況見込評価】

【実績】

◇ 患者ニーズへの対応

平成30年度も引き続き、外来時間中に薬剤部によるお薬講座(よかよか講座)を実施し、薬の服用と取扱い、飲み合わせ、お薬手帳等に関する情報発信を行い、地域全体の医薬品適正使用に向けた取り組みを行っている。また、今年度も引

き続き患者モニター制度を実施したが、その運用方法・活用方法については更なる改善を図っていく。

◇ 長期療養者への就労支援の実施

平成30年度も引き続き、長期療養者への就労支援窓口を設置し、長崎公共職業安定所職員が、就職を希望しているがん等の長期療養者に対し、仕事と治療の両立の相談や、就職面接への助言を行うことで、患者の就労支援を行った。

◇ 病院機能評価認定病院(3rdG:Ver. 2.0) 認定 平成30年度に、第三者機関(公益財団法人日 本医療機能評価機構)による病院機能評価を受 け、病院の機能、安全管理体制、療養環境などが 一定の水準に達していると認定された。

[参考值]

指 標	H28 年度	H29 年度	H30 年度
患者サービス に係る委員会 開催回数(回)	12	11	5
 病院機能評価	認定維持		
認定	3rdG:Ver. 1.	3rdG:Ver. 2. 0	

【令和元年度の取組み】

引き続き、患者アンケート等も活用し、患者ニーズの把握に努め、適宜改善を行い患者視点に立った病院づくりを進める。

第2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

- 2 住民・患者の視点に立った医療サービスの提供
 - (4) 職員の接遇向上

患者及び地域住民から信頼される病院であり続けるため、職員一人ひとりが周囲の人を癒す気持ちを持ち続けるとともに、温かく心のこもった対応ができるよう、接遇の向上を図ること。

中期計画

患者及び地域住民から信頼され愛される病院であり続けるため、病院理念の徹底、職員研修の実施、接遇指導ができる職員の育成などを行うとともに、職員同士の連携とコミュニケーションを更に深めることにより、患者に対する接遇向上を図る。

法人の実施状況(自己評価)

年度計画

患者モニターやアンケートの意見等をもとに、 接遇研修を実施するとともに、その効果を評価し、 更に研修内容を充実させていく仕組みを構築す る。

また、接遇指導ができる職員の育成や、職員同士のコミュニケーションを強化するための環境を整え、患者に対する接遇向上を図っていく。

長崎市の評価理由・意見など

	H28	H29	H30		中期目標	見込評価
	市評価	市評価	法人自己評価	市評価	法人自己評価	市評価
事業年度 評価結果	3	B 2	B 2		В1	

【中期目標達成状況自己見込評価】 職員の接遇向上を図り、患者・地域住民から信頼される病院となるため、継続的なあいさつ運動や、接遇研修により、職員の接遇の質の向上を図っており、さらに教育研修センターを中心により効果的な接遇研修を行うととともに、患者満足度向上委員会を中心に、患者や家族、職員のB等を交えての交流会等を開催し、客観的な視点からの意見等を参考にし、さらなる接遇の向上につなげていくこととしていることから、中期目標の達成に向け順調に進捗していると判断した。 【実績】 【改善事項】 ◇ 理念の周知徹底

平成30年度も引き続き、診療科の責任者が集まる毎日の朝礼で週1回理念と基本方針の唱和を行い、原点回帰の機会を設けている。

◇ 接遇向上の取組み

平成30年度も引き続き、外来開始時のあいさつや総合案内にコンシェルジュ・看護師0Bを配置するなど、よりきめ細やかな対応ができるよう配慮している。

◇ 接遇研修の実施

平成30年度も引き続き、新入職員を対象とした接遇研修の実施や、外部講師を招いた全職員対象の接遇研修を実施し、接遇の向上に努めている。

◇ 患者満足度向上委員会の設置

平成30年度は、多職種から構成された患者満足度向上委員会を設置し、入院患者アンケートの共有及び、ご意見に対する対応を協議し迅速に対応できる体制を整えた。

◇ 委託業者との協働

病院運営を行っている委託業者へのモニタリングを通じて、患者の接遇に対する意見等を共有し、連携を図ることで、接遇向上に努めている。

「参考値〕

(単位:回)

指標	H28 年度	H29 年度	H30 年度
接遇研修	1	1	0
開催回数	l	l	۷

【令和元年度の取組み】

教育研修センターを中心により効果的な接遇研修を行うととともに、患者満足度向上委員会を中心に、患者や家族、職員 0B 等を交えての交流会等を開催し、客観的な視点からの意見等を参考にし、さらなる接遇の向上につなげていく。

第2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

- 2 住民・患者の視点に立った医療サービスの提供
 - (5) ボランティアとの協働

ボランティア活動の行いやすい環境を整備するとともに、ボランティアとの連携を推進し、患者サービスの更なる向上に努めること。

中期計画

ボランティアスタッフが、病院組織の一員として積極的に活動を行うことができるように組織に位置付け、多種多様な活動の場や定期的な情報共有の場を作り、ボランティアスタッフの意見を積極的に取り入れた活動を行う。

また、ボランティア活動を職員にも周知し、病院全体で活動支援を行う体制を構築する。

年度計画

患者及びそのご家族に、信頼され愛される病院 を目指し、患者目線を重視したより良いボランティア活動を提供できる環境を整える。

	H28	H29 H30 中期目標		H30		見込評価
	市評価	市評価	法人自己評価	市評価	法人自己評価	市評価
事業年度	9	٨	Λ		٨	
評価結果		_ ^				

法人の実施状況(自己評価)

長崎市の評価理由・意見など

【中期目標達成状況自己見込評価】

ボランティアスタッフの活動範囲の拡大や、活動状況の発信を行い、またボランティア活動を円滑に行えるような環境整備を行なった。以上のことから、ボランティアとの協働による患者サービスの充実が図れたことにより、中期目標を達成していると判断した。

【中期目標達成状況見込評価】

【実績】

◇ ボランティアスタッフとの協働

・ボランティアスタッフの活動

ボランティア活動の内容として、外来再来 機利用補助、入院患者の病棟案内、折り紙教 室、クリスマスプレゼント等の製作、化学療 法を受けている患者へのタオル帽子製作、図 書の貸出巡回等を行っている。

また、平成30年度より、認知症者にとってより良い医療と安心できる療養環境の提供を目標に活動する認知症サポートチームのボラ

【改善事項】

_

ンティア活動として認知症患者への寄り添い 活動を行っている。

<u>・ボランティアスタッフの活動支援</u>

平成30年度も引き続き、ボランティア活動を 支援するため、職員によるボランティア活動基 金の継続と、ボランティアスタッフを対象とし た講習会を実施した。

<ボランティアスタッフを対象とした講習会> 感染講習、BLS研修、車いす運用講習、インフルエンザに関する講習、外来受付時の対応に関する研修

<u>・ボランティア活動</u>の情報発信

院内・外の広報誌にボランティア活動紹介を 掲載し、活動状況を積極的に発信することで新 規ボランティアの申し込み増や、職員のボラン ティアに対する意識向上につながった。

[参考值]

(単位:人)

指標	H28 年度	H29 年度	H30 年度
ボランティア	18	28	27

※各年度3月31日時点の登録数

【令和元年度の取組み】

引き続き、患者目線を重視した、より良いボランティア活動を提供できる環境を整える。

第2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

- 3 マグネットホスピタルとしての機能
 - (1) 適正配置と人材評価

ア 医療スタッフの適正配置と組織の見直し

医療水準の維持・向上を図るため、病院機構が目指す医療提供体制に必要な医師をはじめとした医療スタッフの適正配置を行うこと。また、指導体制及び研修プログラム等を充実し、研修医の確保に努めること。さらに、医療環境変化に即した組織の弾力的な見直しを図ること。

イ 職員採用の柔軟化

多様な採用形態の検討や、採用手続きの柔軟化・迅速化に努めること。

ウ 適正な人材評価

職員の業績・能力を公正かつ適正に評価する制度を導入すること。

エ 職員満足度の向上

職員が働きがいと誇りをもって業務に精励できるよう、職員が働きやすい環境を整えること。

(単位)

			平成 28 年度		平成 29 年度		平成 30 年度	
	指	標	目標値	実績値(達成率)	目標値(実績値)	達成率	目標値(実績値)	達成率
	医台	⊏ <i>₩</i> Ь	92	96	99	98	103	100
	医卸	リ奴		(104. 3)		(99. 0)		(97. 1)

第 2 期 中期計画 目標値 (平成 31 年度)

【目標值】

T期目標

指標	目標
7対1看護体制	7対1看護体制の維持

	H28	H29	H30		中期目標	見込評価
	市評価	市評価	法人自己評価	市評価	法人自己評価	市評価
事業年度 評価結果	4	В3	B 1		Α	

法人の実施状況(自己評価) 長崎市の評価理由・意見など 【中期目標達成状況自己見込評価】 令和元年度から高度医療提供体制の充実のための集中治療医を配置した。救急医療の充実及び救命救急センターの設置へ向け長崎大学病院等からの専門医の配置や小児・周産期医療の充実のための継続した新生児内科医の配置等、目指す医療提供体制に必要な医師の配置を見込んでいる。また、

職員の労働環境の改善や職員満足度向上のための取り組みを強化していることから、中期目標は達成する見込みであると判断した。

【実績】

個別実績のとおり

【令和元年度の取組み】

救急医療の充実及び救命救急センターの設置へ向け長崎大学病院等からの専門医の配置や高度医療提供体制の充実のための集中治療医の配置、小児・周産期医療の充実のための継続した新生児内科医の配置等、目指す医療提供体制に必要な医師の配置を見込んでいる。

【改善事項】

【改善事項】

ア 医療スタッフの適正配置と組織の見直し

中期計画

医療水準の維持・向上を図り、地域の中核的基 幹病院としての役割を果たすために、医師をはじ めとした医療スタッフを適切に配置し、必要な医 療提供体制を実現する。4つの柱のうち、特に救 急医療、高度医療、小児・周産期医療については 人員強化を図り、安全・安心な医療を提供する。

また、臨床研修指定病院として、より一層の研修プログラムの充実や病院全体での指導体制の強化等を図り、研修医を積極的に受け入れる。

更に中核的基幹病院として、地域医療構想など 医療環境が変化していく中で、その変化に対応で きる弾力的な組織体制を構築する。

年度計画

- ・医療水準の維持・向上を図り、地域の中核的基 幹病院としての役割を果たすために、医師をはじ めとした医療スタッフを適切に配置する。
- ・救急医療、高度医療、小児・周産期医療については、より安全・安心な医療を提供する体制を整備するために、引き続き必要な医療スタッフの確保に取り組む。
- ・研修プログラムを充実させ、引き続き研修医の 確保に努める。
- ・専門医の資格取得のための院内体制を構築する。

(単位:人)

実施状況(判断理由)

◇ 医療スタッフの適正な配置

救急医療の充実を図るため、平成30年度から長崎大学病院からの応援医師の派遣を受けるとともに、平成30年度も引き続き、関東の国立大学附属病院より救急医1名を出向形態で受け入れ、救急患者の受入体制を整備した。

[参考值]

			(———
指標	H28 年度	H29年度	H30 年度
看護職員数	542	538	540
医療技術員数	144	147	151
医師事務作業補助者数	27	30	31
100 床あたり職員数	136. 5	137. 4	139. 1

※3月31日現在(再任用短時間勤務職員、嘱託員を含む。)

※100 床あたり職員数には、常勤換算した再任用短時間勤務職員、嘱託員を含む。

[参考值]

(単位:人)

指標	H28 年度	H29 年度	H30 年度
初期研修医受入数	17	14	18

※3月31日現在

イ 職員採用の柔軟化

中期計画 年度計画 新卒採用だけでなく、中途採用、外部登用、再 雇用などの柔軟な採用形態と、短時間勤務など に努める。 職員のワークライフバランスにも配慮した多様 な勤務形態での採用を行い、必要な人員の確保 と欠員の迅速な補充に努める。

また、非正規職員から正規職員への登用制度 の構築など、必要な人材を確保するための方策 を検討する。

・ 柔軟な採用形態と多様な勤務形態での採用を行 い、必要な職員の雇用確保と欠員の迅速な補充

実施状況(判断理由)

- ◇ 柔軟な職員採用への取組み
- ・職員採用の柔軟化

必要な医師を確保するため、派遣機関との協定に基づく出向形態での受入れや、ワーク ライフバランスに配慮した女性医師の任期付短時間雇用等、多様な勤務形態での雇用を進 めた。また、欠員の職に専門的知識の経験を有する者の補充、育児休業取得者の代替とし て嘱託職員を有期雇用で都度採用するなど欠員の補充に努めた。

適正な人材評価

中期計画	年度計画
職員の仕事に対する意欲と能力を高めるために、当院独自の人事評価システム(WES: Work Editing Service)の定着を図り、職員の業績の適正評価と人材育成に活用する。	・ 職員の仕事に対する意欲と能力を高めるために、当院独自の人事評価システム(WES: Work Editing Service)の活用の検証、改善を行う。

実施状況(判断理由)

- ◇ 人事評価システムの充実
 - ・診療科目標の設定変更

各部署における取り組み目標について期首面接時に難易度評価を制度化し、現行の人事評価 制度の精度を高めた。また、診療科においてはWESの目標設定を、診療科の特性を考慮した ものにするため、目標達成のための手段は各診療科に一任し、「全診療科一律入院収益 5%増」 に設定した。このような設定方法に変更したことで、適正な評価を行った。

・評価結果のフィードバック

平成30年度も、職員自らが自分の人事評価結果をWEB上で確認するシステムを維持し、 評価結果に基づく自らの業務の振り返り、今後の業務改善に役立てている。

エ 職員満足度の向上

中期	目計	面.

職員にとって働きがいと誇りが持て、働きやすい職場とするために、ワークライフバランスに配慮した労働環境整備と、仕事に対する意欲と能力を高めることができる適正な人材評価を行う。

また、職員に対して様々な相談窓口を周知し、 メンタルヘルス支援、ハラスメント対策等を充 実させ、職員の精神的な健康の確保にも努める。

年度計画

- ・ 働きがいのある職場づくりと働き方改革を進める。
- ・ 院内委員会運営の見直しを行うなど、業務の効率化を推進し、時間外勤務の削減に努める。
- ・ 職員のメンタルヘルス支援を継続して行う。
- ・ 職員の健康増進並びに職員相互の融和を図り、 働きやすい環境づくりの一つとして院内クラブ 活動の活性化を推進する。

実施状況(判断理由)

◇ワークライフバランスの推進

・労務係の新設

これまでは事務部人事課の人事給与係において職員の労務管理等の業務を行ってきたが、 働き方改革をさらに推進し、労働環境を改善していくため、平成30年度に新たに労務係を新 設した。

・メンタルヘルス支援の強化

病休者を減らすため、時間外勤務長時間実施者やストレスチェック判定による高ストレス者のケアのため、平成30年度に保健師の配置を決定した。

・ハラスメント防止に関する周知徹底

平成30年度は、ハラスメントに対する正しい理解を促すため、院内の各所に事例を挙げたハラスメント防止策を掲示し、周知徹底を図った。

・医師を含む医療従事者の負担軽減

引き続き、主治医グループ制やインフォームド・コンセントの時間内実施の推進を行った。 さらに、医師の時間外労働の上限時間を減少させ、勤務軽減を図るとともに意識改善を図った。

また、医師の時間外勤務時間については、人事課労務係が毎週チェックし過労働の防止につなげている。看護師においては、平成30年度より夜勤専従勤務希望者を募ることにより、 を勤従事者の負担軽減を図っている。

・院内保育所マリンキッズの活用

引き続き、院内保育所マリンキッズを活用し、子育て中の職員への支援を行った。 <利用者数(H30 年度最大利用者数>

18 名(うち1名は臨時保育) ※臨時保育: 突発的(緊急)な理由において利用

・クラブ活動の活性化

働きやすい環境づくりの一環として、院内のクラブ活動を活性化するため、「みなとメディカルクラブ活動助成金制度」の運用を平成30年度より開始し、職員の健康増進並びに職員相互のコミニュケーション強化に寄与した。

<活動クラブ(H31年3月末時点)>

バトミントン、サッカー、テニス、バレーボール、ゴルフ

・院内アロママッサージの活用

心身の疲れをリフレッシュするために平成 29 年度に開設した院内アロママッサージの運営 を維持し、利用者も増加している。

第2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

- 3 マグネットホスピタルとしての機能
 - (2) 医療スタッフの育成

中期目標

ア 研究・研修事業の強化

臨床研究及び治験の体制を整備するとともに、医療スタッフの専門性や医療技術の向上を図るため、研修制度の充実を図ること。

イ 資格取得などに対する支援

医療スタッフの資格取得などに対する支援に引き続き努めること。

	H28	H29	H30		中期目標	見込評価
	市評価	市評価	法人自己評価	市評価	法人自己評価	市評価
事業年周	₹ 2	B 2	B 1		^	
評価結果	人	D Z	БІ		Α	

法人の実施状況(自己評価) 長崎市の評価理由・意見など 【中期目標達成状況自己見込評価】 【中期目標達成状況見込評価】 研究開発センターを中心に臨床研究や治験を実 施し、職員の研究等に対する意識向上を図った。 また、資格取得支援を引き続き行うとともに、人材 育成ビジョン(全職員版)を基に階級別、職種別の 研修を行うこととしており、医療スタッフの育成 の充実を図ることから、中期目標は達成する見込 みであると判断した。 【実績】 【改善事項】 個別実績のとおり 【改善事項】 【令和元年度の取組み】 引き続き、研究開発センターを中心に治験や臨 床研究を行うとともに、人材育成ビジョンを基に 階級別、職種別の研修を行うこととしている。

ア 研究・研修事業の強化

中期計画

研究開発センターの機能を強化するなど、 臨床研究及び治験が行いやすい環境を整備 し、多職種の研究を推進する。

また、医療スタッフの専門性や医療技術の 向上を図るため、院内研修の充実とともに、 外部講師を招聘しての研修、先進病院での 研修など、様々な機会を設け研修制度の充 実に努める。

更に、職員だけでなく地域の医療従事者、学 生、実習生などの受け入れも積極的に行い、 地域医療で活躍する人材の育成に貢献す る。

年度計画

- ・関係法令等に則って治験及び臨床研究の体制を整備す
- ・病院全体での円滑な治験実施のために、医師だけでは なく多職種が一体となった治験実施体制等を構築する。
- ・研究開発センターを中心に、科学研究費補助金の施設 認定申請の準備を進める。
- ・研究者がより質の高い研究に取り組めるよう、研究設 備の有効活用や研究活動の活性化及び研究倫理に関する 啓蒙を推進する。
- ・臨床研究における倫理教育の基盤強化に努める。

実施状況(判断理由)

- ◇ 研究研修事業の強化
 - ・研究開発センターの取組み

倫理委員会の定期開催や、緊急事案に対応できる仕組みを設けるなど平成 30 年度は、倫理審査 体制の見直しを行ったことで、更に適切に審査を行う環境となった。また、全職員対象の倫理講習 会や治験研修会も引き続き実施し、職員の研究に対する意識向上に努めている。

<外部獲得資金()はH29 年度実績>

12.900 千円 (13,423 千円)

- ◇ 専門性や医療技術の向上推進
 - ・外部講師による講演会、研修会の実施

周産期に関するセミナーや、平成30年度診療報酬改定関連の講演会、各診療科分野の講演 会を実施し医療スタッフの専門性や知識向上に努めた。

◇ 地域医療で活躍する人材の育成

医師、看護師、コメディカルスタッフ、救急救命士といった医療従事者や事務職員(医事課)を 目指す学生等の受入れを引き続き実施し、将来地域で活躍する人材の育成に寄与した。

<学生等受入れ件数()はH29年度実績>

実習生:837人(775人)、医学生:71人(62人)

「参考値〕

(単位:件)「参考値]

(単位:件)

指標	H28 年度	H29 年度	H30 年度
治験実施件数	10	12	11
製造販売後	14	16	17
調査件数	14	10	17
臨床研究件数	57	46	38

指標(暦年)	H28年度	H29年度	H30 年度	
学会発表件数	280	305	225	
論文件数	64	39	40	

イ 資格取得などに対する支援

中期計画	年度計画
医療の質及び専門性の向上を図るため、多様	・ 認定看護師等の資格取得に対する支援を引き続
な職種の専門資格取得を推進し、これを支援す	き行い、支援対象者の拡大を図る
る。	
また、職場環境を整備し、取得した資格を活	
かし専門性を発揮できる体制を整える。	

実施状況(判断理由)

◇ 資格取得の推進

・資格取得に関する支援

引き続き、医療の質や専門性の向上並びに職員の勤労意欲向上を図るため、専門医、認定看護師、専門・認定薬剤師、認定技師など医療従事者の資格取得を奨励し、旅費や学費等の支援を行った。また、看護師を中心に貸与型の奨学金制度を利用した計画的な資格取得の促進に取り組んだ。

[参考値] (単位:人)

指標	H28 年度	H29 年度	H30 年度	
認定看護師資格	14	16	19	
取得支援人数累計	14	10	19	

※資格取得人数累計は、平成20年度からの累計

第2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 4 法令・行動規範の遵守

医療法をはじめとする関係法令をはじめ、行動規範を遵守すること。また、個人情報保護、特定個人情報保護及び情報公開に関しては、市の条例等に基づき適切に対応すること。

中期計画

医療法をはじめとする関係法令の遵守はもちろん のこと、機構で定める倫理規程等を遵守するなど コンプライアンスを徹底し、適正な病院運営を行う。

また、個人情報保護、特定個人情報保護及び情報公開に関しては、市の条例等に基づいた対応に加え、厚生労働省が示している医療機関に対するガイドラインにも適切に対応する。

年度計画

- ・医療法をはじめとする関係法令や機構で定める 倫理規程等を遵守するなど、コンプライアンスを 徹底し、適正な病院運営を行う。
- ・個人情報保護、特定個人情報保護及び情報公開に 関しては、市の条例等に基づいた対応に加え、厚生 労働省が示している医療機関に対するガイドライ ンにも適切に対応する。
- ・ 内部統制体制を明確にし、機構内ガバナンスの 更なる強化に努める。

	H28	H29	H30		中期目標見込評価	
	市評価	市評価	法人自己評価	市評価	法人自己評価	市評価
事業年度 評価結果	2	B 2	B 1		Α	

法人の実施状況(自己評価)

【中期目標達成状況自己見込評価】

内部統制体制によるガバナンスの強化をしていくこととしており、監事監査で口頭指摘された事項の改善、個人情報保護等への適切な対応、関係法令・行動規範の遵守に取り組んでいることから中期目標は達成する見込みであると判断した。

長崎市の評価理由・意見など

【中期目標達成状況見込評価】

【実績】

【改善事項】

◇ 個人情報保護等への対応

個人情報保護、情報公開の取扱いについては、 引き続き長崎市個人情報保護条例及び長崎市情報公開条例の実施機関として適切な運用を行った。また、個人情報に関する他院の事例や改正情報については、適宜院内周知や全職員対象のセキュリティ研修会の実施を行うなど職員の意識向上に努めている。

◇ 内部統制体制の明確化

平成30年度より、法人の理念や基本方針、目標を達成するための統制体制や遵守のチェック、通報制度について「内部統制に関する規程」として明文化し、ガバナンスの強化を図った。

◇ 内部監査室の役割の明確化

これまで会計規程の一部で規定されていた内部監査を独立させ、平成30年度に「内部監査規程」を新たに制定し、内部監査室を、法人の運営諸活動全般の監査・改善提案、内部・外部通報の受付を行う組織と規定した。

◇ 法人情報等の公表

引き続き、法人情報についてもホームページ で公表し透明性に努めている。また、手術実績や がん治療の実績、研究実績なども更新した。

「参考値〕

(単位:件)

指標	H28年度	H29 年度	H30 年度
診療録 開示件数	79	59	73

【令和元年度の取組み】

内部統制体制によるガバナンスの強化と監事監査で口頭指摘された事項の改善を行う。

第3 業務運営の改善及び効率化に関する事項

- 1 組織体制の充実・連携強化
 - (1) PDCAサイクルの徹底による業務評価の推進

目標管理制度を活かし、目標及び計画に対する成果の検証を迅速に行い、成果を継続して伸ばしていく柔軟な対応を図ること。

中期計画

WES(当院の人事評価システム)における 目標管理等を活かし、各部門における目標及び 計画の進捗管理と結果検証を行い対応する仕組 みを確立することで、継続的に業務の改善を図 る。

また、目標に対する業務実績や計画・予算の 進捗状況、それらの分析結果等は、経営会議に おいてその内容を把握して対応方法を決定し、 組織が一体となって取り組む仕組みを確立す る。

理事会においては、業務実績や計画・予算の 進捗チェックとともに、PDCAサイクルが機 能しているかについてもチェックする。

年度計画

- ・ 経営戦略室において、業務実績や計画、予算の 進捗管理を徹底し、業務改善を図る。
- ・ 各部門の目標管理については、WESを活かし 定期的に進捗状況を把握し、結果検証を行う。
- ・ 理事会においては、業務実績や計画、予算の進 歩チェックを行うとともに、PDCAサイクル が機能しているかについてもチェックする。

	H28	H29	H30		中期目標見込評価	
	市評価	市評価	法人自己評価 市評価		法人自己評価	市評価
事業年度 評価結果	3	В3	B 1		Α	

法人の実施状況(自己評価) 長崎市の評価理由・意見など 【中期目標達成状況自己見込評価】 理事会や病院経営会議において、業務実績や予算の進捗管理を行い、PDCAサイクルをより機能させるために、経営戦略会議やWESで進捗管理を行い、評価・改善していく仕組みを構築し、各部署の目標達成に向けた進捗管理を適宜行い、改善を図っていくこととしている。また、内部統制体制の構築によりPDCAのチェック体制を機能させることとしている以上のことから、中期目標は達成する見込みであると判断した。

【実績】

【改善事項】

◇ 目標管理制度の新設

従来の目標管理制度を見直し、病院目標を達成するために、それぞれの部署が取組む目標・効果・指標・行動計画を立て、進捗状況をチェックし、評価・改善する仕組み作りを構築した。また、病院経営会議等において業務実績及び予算のPDCAが機能しているかを内部統制理事がチェックし、問題があれば指摘、理事会へ報告することを内部統制の規程で明確化することで、病院経営会議と理事会を連動させた。

◇ 理事会での取組み

平成30年度も引き続き、理事会において各診療科の責任者が診療科の現状や今後の取り組み等をプレゼンテーションする機会を設定し(毎月1診療科)、法人役員が現場の声を直接聞き、より実態に即した意見交換を行った。

【令和元年度の取組み】

各部署の目標達成に向けた進捗管理を適宜行い、改善を図っていくこととしている。

また、内部統制体制の構築によりPDCAのチェック体制を機能させることとしている。

第3 業務運営の改善及び効率化に関する事項

- 1 組織体制の充実・連携強化
 - (2) 事務部門の専門性の向上

医療制度改革や診療報酬改定、医療需要の変化等に迅速かつ的確に対応し、戦略的な病院経営を行うため、事務部門の専門性の向上を図ること。

中期計画 年度計画 医療制度改革や診療報酬改定、医療需要の変 ・ 各所属においても活発に研修等を行い、個々人化等に迅速かつ的確に対応し、戦略的な病院経営を行うため、主に経営に関する企画と管理を行う部署の設置、病院事務としての使命感と高い専門性を持った職員の育成や人事ローテーション、他施設への研修派遣等を行い、専門性の向上を図る。

	H28	H29	H30		中期目標見込評価	
	市評価	市評価	法人自己評価	市評価	法人自己評価	市評価
事業年度評価結果	3	B 2	B 1		Α	

法人の実施状況(自己評価)	長崎市の評価理由・意見など
【中期目標達成状況自己見込評価】	【中期目標達成状況見込評価】
医療事務や経営における専門的な知識を有する職員を育成するとともに、院外の勉強会、学会を通じて他院の先進的事例を学び、自院に活用させることで、より専門的な視点から病院運営を行うこととしており、中期目標は達成する見込みであると判断した。	

【実績】

- ◇ 平成 30 年度診療報酬改定への対応
 - 平成30年度診療報酬改定への対応 平成30年度診療報酬改定により新設された項目については、迅速に要件の検討、届出を行い、 増収を図った。
- ◇ 事務職員レベルアップの取組み

平成30年度は、事務部門のレベルアップを図るため教材(病院事務職員としての基本的知識取得のためのオリジナル動画)の作成を行った。

<研修プログラムの一例>

診療報酬請求について、保険請求について、DPC制度について、防火、防災、インフラについて、施設環境について、原価計算について、医療機関の広告規制について、電子カルテシステム、情報セキュリティについて、労務、勤怠、給与、採用について、文書の取扱いについて、等

◇ 専門性を活かした人材配置の効果

平成30年度は、上級医療情報技師(平成31年6月現在で長崎県に一人)の資格を有する放射線技師(医療の知識とITスキルを持った人材)を情報企画係へ配置することにより、医療情報の安全性かつ有効利用を図ることができ、有資格者が、OJTを行いながら人材育成を行った。

【令和元年度の取組み】

医療事務や経営における専門的な知識を有する 職員を育成することとしている。

院外の勉強会、学会への参加について、令和元年 度は、他院の先進的事例を学び、自院に活用させ る。

【改善事項】

第4 財務内容の改善に関する事項

1 持続可能な経営基盤の確立

適正な病床稼働率を維持するとともに、給与費、材料費及び経費の医業収益に占める目標を 設定し、その目標を達成すること。

また、第2期中期目標期間中における長崎市からの運営費負担金を含めた4年間の経常収支 を黒字とし、第1期中期目標期間中の累積欠損金についても解消に努め、将来にわたって安定 的かつ持続可能な経営基盤を確立すること。

中期計画

適正な病床稼働率を維持し、給与費比率、材料費比率及び経費比率の低減化に努め効率的・効果的な病院経営を行い、将来にわたって安定的かつ持続可能な経営基盤を確立する。そのために、PDCAサイクルの徹底と業務の見直しを確実に実施する。

また、第2期中期計画期間の4年間の経常収支を黒字とするよう努める。

年度計画

- ・ 第 2 期中期計画期間中の収支均衡が図れるよう、平成 30 年度の経常収支の黒字を目指す。
- ・ 効率的なベッドコントロールと新入院患者数 の増加を図り、病床稼働率の目標値の達成を 目指す。
- ・ 適正な人員配置等を行い、給与費比率の目標 値の達成を目指す。
- ・ 徹底した価格交渉により、材料費比率の縮減 を行うとともに、継続した経費削減等を実施 する。

【目標值】

	11c 13m	平成 28 年度		平成 29 年度		平成 30 年度		第 2 期中期計画 目標値 (平成 31 年度)	
	指標	目標値	実績値 (達成率)	目標値	実績値 (達成率)	目標値	実績値 (達成率)	目標値	実績値 (達成 率)
	延べ患者数	145, 192	137, 981	145, 192	145, 722	155, 968	145, 189	158, 200	
入院	(人)		(95. 0)		(100. 4)		(93. 1)		
阮	1人1日当た	68, 500	63, 853	68, 500	64, 874	71, 500	65, 941	73, 500	
l —	り単価(円)		(93. 2)		(94. 7)		(92. 2)		
般病床)	病床稼働率	84. 8	80. 3	84. 8	80. 8	86. 5	80. 5	87. 5	
床	(%)		(94. 7)		(95. 3)		(93.1)		
	平均在院日数	11. 0	11. 5	11. 0	11. 2	11. 0	11. 3	11. 0	
	(日)		(95. 7)		(98. 2)		(97. 3)		
	延べ患者数	143, 036	139, 534	143, 036	143, 473	144, 524	144, 463	145, 200	
外来	(人)		(97. 6)		(100. 3)		(100. 0)		
米	1人1日当た	16, 671	19, 120	16, 671	19, 225	17, 035	20, 137	17, 200	
	り単価(円)		(114. 7)		(115. 3)		(118. 2)		
			_						

り単価(口)	(114. /		,	(113.		(110. 2)
	平成	28 年度	平成 29 年度		平成 30 年度	
指標	目標値	実績値	目標值	実績値	目標値	実績値
		(達成率)		(達成率)		(達成率)
松田士比玄	100. 1	98. 7	100. 1	103. 6	101. 8	100. 0
総収支比率		(98. 6)		(103. 5)	101. 0	(98. 2)
│ │経常収支比率	100. 3	98. 2	100. 3	102. 3	101. 8	101. 4
性市权文儿举		(97. 9)		(102. 0)	101. 0	(99. 6)
 医業収支比率	93. 0	92. 1	93. 0	97. 0	96. 7	97. 1
区未収文几年		(99. 0)		(104. 3)	30. 7	(100. 4)
	56. 0	59. 6	56. 0	55. 4	53. 2	56. 4
 給与費比率		(94. 0)		(101. 1)	00. 2	(94. 0)
加丁貝以平	53. 3	56. 9	53. 3	55. 0	50. 7	54. 6
		(93. 7)		(96. 9)	30. 7	(92. 3)
 材料費比率	24. 0	25. 1	24. 0	25. 9	24. 4	25. 7
17171月11年		(95. 6)		(92. 7)	۷٦. ٦	(94. 7)
│ │経費比率	15. 2	13. 5	15. 2	13. 0	15. 3	13. 3
性具心平		(112. 6)		(116. 9)	10. 0	(113. 1)

第2期中期計画 目標値 (平成31年度)
101. 8
101. 8
98. 0
52. 9
50. 4
24. 4
15. 3

	H28	H29	H30		中期目標見込評価	
	市評価	市評価	法人自己評価	市評価	法人自己評価	市評価
事業年度 評価結果	2	В3	B 2		B 2	

法人の実施状況(自己評価)

【中期目標達成状況自己見込評価】

令和元年度も引き続き、経常収支の黒字を目指しているが、給与費比率、材料費比率については目標に達しておらず、改善する必要がある。また、持続可能な経営基盤の確立に向け、収入増加策や費用の縮減について長期的な計画を検討する必要があるため、概ね順調に進捗しているが、一部改善を要すると判断した。

長崎市の評価理由・意見など

【中期目標達成状況見込評価】

【実績】

【改善事項】

- ◇ 診療報酬改定に伴う医薬品費・診療材料費の 価格交渉による削減効果
 - <H30年度>

医薬品仕入価格削減額 ▲40,500 千円 診療材料仕入価格削減額 ▲39,000 千円

- ◇ 医薬品の後発品切替えに伴う価格削減効果
 - <H30年度>

▲3,960 千円

- ◇ 廃棄物処理委託料の削減
 - <H30年度>
 - 一般産業廃棄物処理委託料 ▲4,200 千円

【令和元年度の取組み】

【改善事項】

持続可能な経営基盤を確立するために救命救急 センター設置に向けた病床機能の見直しによる入 院診療単価の増や、診療報酬請求の精度を高める などにより、収入確保に努めるとともに、人件費の 見直しや予算管理を徹底し、コストの縮減に取り 組んでいく。

財務内容の改善に関する事項

業務の見直しによる収支改善 2

診療報酬をはじめとして適切かつ確実な収入確保に努めるとともに、弾力的に運用できる会 計制度を活用して収支の改善を図ること。

中期計画

実施した診療行為を確実に収入につなげるた めの日常的な運用体制及びチェック体制を病院 全体で確立するとともに、DPCデータの分析、 他院ベンチマーク、クリティカルパスの活用な どで収入増加に努める。

また、未収金に関しては未然防止を図るとと もに回収率を向上させる。支出に関しては、物品 購入、業務委託などの価格交渉の徹底や節電等 の経費節減などにより無駄をなくすとともに、 予算進捗管理を徹底する。

年度計画

- ・ 原価管理システムを活用し、データに基づいた 改善点を把握した上で、診療科ヒアリング等を 行い、収支改善につなげる。
- ・ 未収金の減を図るため、分割納付の相談を行う とともに、回収が困難な事案については、継続 して法的専門家に未収金の回収業務を委託す る。
- ・ 平成 30 年度診療報酬改定への対応を迅速に行 い、収益の増を図る。
- ・ 事務部門の体制を見直し、業務の効率化等を行 うことで、時間外勤務手当の削減を図る。

	H28	H29	H30		中期目標見込評価	
	市評価	市評価	法人自己評価	市評価	法人自己評価	市評価
事業年度	2	В3	Λ		٨	
評価結果	3	Б3	A		A	

市評価 市評価 法人自己評価 市評価 法人自己評価 市評価 事業年度 評価結果 3 B3 A A A					1 773 183	
	市評価	市評価	法人自己評価	市評価	法人自己評価	市評価
	3	В3	A		A	

【中期目標達成状況自己見込評価】

診療行為を確実に収入につなげるとともに、原 価管理システム等を活用しデータに基づいた収支 改善を行うこととしている。

法人の実施状況(自己評価)

また、未収金の減を図るための対策を行うなど 業務の見直しを随時進めていることから、中期目 標は達成する見込みであると判断した。

長崎市の評価理由・意見など

【中期目標達成状況見込評価】

【実績】

【改善事項】

◇ 業務の見直しによる収支改善

施設基準を新たに申請したことにより医療機関係数が上がり、昨年度と比較して 67,800 千円の収入増となった。

(新たに申請した施設基準)

- · 医療安全対策地域連携加算 1
- ·看護職員夜間配置加算 12 対 1
- ·後発医薬品使用体制加算1

※入院費用の計算式

- · 入院費用=包括される診療費用+出来高の診療 費用+食事療養費+(特別療養環境費)
- ・包括される診療費用=診療群分類毎の一日の包括評価点数×入院日数×医療機関別係数×10円

◇ 未収金への対応

個人未収金の回収マニュアルを改訂し、院内 で着実に回収する体制を強化(新たな人員の配 置等)した。また、回収が困難な事案については、 引き続き法的専門家に未収金の回収業務を委託 した。

◇ 経営戦略会議の新設

経営や将来構想等について、病院経営に着眼 した検討を行う事を目的に経営戦略会議を新設 した。会議の委員は各部署の所属長から構成さ れており、より多角的かつ専門的な視点から病 院経営について検討を行っている。

【令和元年度の取組み】

未収金の減や事務部門の業務の見直しによる時間外勤務手当の削減等、さらなる業務の改善を行う。

第5 その他業務運営に関する重要事項

1 新市立病院建設の着実な推進

「長崎市新市立病院整備基本計画」に基づく新市立病院建設事業については、平成 28 年度の全面開院に向け、事業に取り組むこと。

2 新市立病院における事業の円滑な推進

PFI 事業者と連携を図り、施設の適正な維持・管理に努めるとともに、質の高い病院サービスを提供し、長期的な視点を持って事業の円滑な推進を図ること。

中期計画	年度計画
1 新市立病院建設の着実な推進 「長崎市新市立病院整備基本計画」に基づき、平成28年度に全面開院できるよう確実に事業に取り組む。	
2 新市立病院における事業の円滑な推進 パートナーである PFI 事業者と密に連携し、 患者サービス向上と施設の適正な維持・管理に 努め、質の高い病院サービスを提供し、長期的な 視点を持って事業の円滑な推進を図る。	事業の円滑な推進を図るため、パートナーである PF I 事業者と密に連携し、適正な施設整備の管理と効率的な中長期修繕計画の策定、エネルギーの使用の合理化等に関する法律(省エネ法)に基づく長期的なエネルギー管理を行う。

	H28	H29	H30		中期目標見込評価	
	市評価	市評価	法人自己評価	市評価	法人自己評価	市評価
事業年度	2	٨	٨		٨	
評価結果	3	A	^A		A	

法人の実施状況(自己評価)	長崎市の評価理由・意見など
【中期目標達成状況自己見込評価】	【中期目標達成状況見込評価】
PF 事業者と連携を図り、施設の適正な維持・ 管理を行うとともに、効率的なエネルギー管理を	
音壁を打了とともに、効率的なエネルヤー管理を 行い、事業の円滑な推進を図ったため、中期目標を	
遺成していると判断した。	
達成していると判断した。	

【実績】

◇ PFI事業者との連携

・設備の維持管理

PFI事業者と月 6 回(エネルギーマネジメント、建築物・建築設備の維持管理、利便施設に関する協議等)協議会を開催し、患者の医療環境が適正なのかモニタリングを実施することで、確実な事業の推進を行っている。

また、建築物・建築設備の維持管理については、建築物、機器の点検を行いながら、機器の状態把握を行い、適正な時期に取替え更新を行うことで、安定的でかつ長期的な運用を図れるよう努めた。

・エネルギー管理

各病棟、診療部門の消費エネルギー(対前年同月実績)のデータを職員に通知し、エネルギー消費の見える化を行うことで、省エネルギーについての啓発を行った。また、省エネルギー推進委員会で夏期・冬期の省エネルギー指針を決め、院内に周知するとともに、照明や空調の使用時間に無駄がないか院内ラウンドチェックを行い、現場と施設維持管理者の連絡を随時行うことで、エネルギーの使用量と使用時間の適正化に努めた。

<電気・ガスの重油換算/面積>

H30 年度: 81.6/㎡

(H29年度:84.2/㎡、H28年度:85.6/㎡)

対前年度比: 3.1%減

【令和元年度の取組み】

引き続き、PFI事業者と連携を図り、施設の適 正な維持・管理に努める。

【改善事項】

_

第6 予算・決算(人件費の見積りを含む。)、収支計画及び資金計画

1 予算・決算

(単位:百万円)

区分	平成 2	8 年度	平成 2	9 年度	平成 3	0 年度	平成 31	年度
	予 算	決 算	予 算	決 算	予 算	決算	予 算	
収入								
営業収益	13, 082	12, 567	12, 805	13, 139	13, 745	13, 350	14, 292	
医業収益	12, 393	11, 855	12, 201	12, 555	13, 202	12, 793	13, 715	
運営費負担金	639	639	550	534	510	510	547	
補助金等収益	50	41	54	38	34	34	30	
寄附金収益	-	5	-	11	_	13	_	
その他営業収益	_	28	_	_	_	_	_	
営業外収益	72	117	113	172	154	179	169	
運営費負担金	51	41	43	39	39	37	50	
その他営業外収益	21	76	70	133	115	141	119	
資本収入	1, 797	1, 794	614	628	1, 638	1, 657	490	
運営費負担金	532	493	464	460	438	438	222	
長期借入金	939	938	150	150	1, 200	1, 200	268	
その他資本収入	326	362	_	18	-	20	_	
計	14, 951	14, 478	13, 532	13, 938	15, 537	15, 186	14, 951	
支 出								
営業費用	12, 138	11, 835	11, 953	12, 542	13, 115	12, 761	13, 540	
医業費用	12, 138	11, 835	11, 953	12, 542	13, 115	12, 761	13, 540	
給与費	6, 868	6, 843	7, 170	7, 259	7, 625	7, 314	7, 685	
材料費	3, 205	3, 207	2, 939	3, 493	3, 559	3, 559	3, 798	
経費	2, 023	1, 729	1, 774	1, 736	1, 852	1, 830	1, 976	
研修研究費	41	56	70	53	79	58	81	
一般管理費	_	-	_	-	_	_	-	
営業外費用	117	113	88	110	108	104	307	
資本支出	2, 851	2, 834	1, 373	1, 346	2, 340	2, 343	810	
建設改良費	1, 430	1, 419	170	184	1, 222	1, 223	280	
償還金	1, 202	1, 202	993	993	950	951	522	
その他資本支出	219	212	210	168	168	169	8	
計	15, 106	14, 782	13, 414	13, 997	15, 563	15, 208	14, 657	
単年度資金収支	▲ 155	▲304	118	▲ 59	▲26	▲23	294	

- (注1) 計数はそれぞれ四捨五入によっているので、端数において合計とは一致しないものがあります。
- (注2) 損益計算書の計上額と決算額の相違の概要は、以下のとおりです。
 - ① 上記数値には消費税及び地方消費税を含んでいます。
 - ② 損益計算書において計上されている現金収入を伴わない収益及び現金支出を伴わない費用は、上記に含んでいません。
 - ③ 損益計算書の給与費のうち退職給付費用及び賞与引当金繰入額については上記の給与費に含んでいません。 退職手当及び賞与の実支給額を含む金額を記載しています。

2 収支計画

(単位:百万円)

			平成 2	8年度	平成 2	9 年度	平成 3	0 年度	平成 3	1 年度
	区	分	予算	決算	予算	決 算	予 算	決算	予 算	
収	益の部		13, 854	13, 514	13, 660	14, 510	14, 612	14, 250	14, 910	
	営業収益		13, 783	13, 258	13, 552	13, 883	14, 466	14, 077	14, 750	
	医業収	<u></u> 益	12, 380	11, 837	12, 176	12, 536	13, 181	12, 775	13, 693	
	運営費	負担金収益	639	641	550	534	510	510	547	
	補助金	等収益	50	81	54	49	34	47	30	
	資産見	返負債戻入	713	699	772	764	742	746	480	
	営業外収益	±	71	134	108	164	146	170	160	
	運営費	負担金収益	51	41	43	39	39	37	50	
	その他	営業外収益	20	93	65	125	107	133	110	
	臨時利益		0	121	0	463	0	4	0	
費	費用の部		13, 834	13, 685	13, 653	14, 004	14, 545	14, 247	14, 877	
	営業費用		13, 640	13, 468	13, 555	13, 556	14, 365	13, 873	14, 673	
	医業費	用	13, 309	13, 109	13, 139	13, 182	14, 005	13, 487	14, 228	
		給与費	6, 930	7, 050	7, 361	6, 939	7, 578	7, 209	7, 638	
		材料費	2, 968	2, 969	2, 724	3, 245	3, 296	3, 287	3, 485	
		経費	1, 883	1, 599	1, 650	1, 629	1, 727	1, 702	1, 823	
		減価償却費	1, 488	1, 436	1, 339	1, 317	1, 330	1, 231	1, 205	
		その他	39	55	65	52	74	57	75	
	控除対象	外消費税等	331	359	416	375	361	387	445	
	営業外費用	<u></u>	179	174	88	176	175	172	204	
	臨時損失		15	44	10	272	5	202	0	
純	純利益		20	▲ 171	7	506	67	3	33	
目	的積立金取	崩額	0	0	0	0	0	0	0	
総	利益		20	▲ 171	7	506	67	3	33	

⁽注1)数値の単位未満については、原則として四捨五入をしているため、総数と内数が一致しない場合がある。

⁽注2)減価償却費には、資産見返負債戻入相当額を含む。

3 資金計画

(単位:百万円)

		区 分	平成 2	8 年度	平成 2	9 年度	平成 3	0 年度	平成 31	年度
			予算	決 算	予算	決 算	予算	決 算	予 算	
資	金川	又入	16, 642	16, 428	14, 032	14, 520	16, 444	16, 181	15, 831	
	業	務活動による収入	13, 155	12, 329	12, 917	13, 144	13, 899	13, 509	14, 461	
		診療業務による収入	12, 393	11, 583	12, 201	12, 514	13, 202	12, 915	13, 715	
		運営費負担金による収入	690	688	593	567	549	545	597	
		その他の営業活動による収入	72	58	123	63	149	49	149	
	投	資活動による収入	857	2, 019	464	455	438	438	222	
		運営費負担金による収入	857	569	464	455	438	438	222	
		その他の投資活動による収入	0	1, 450	0	0	0	0	0	
	財	務活動による収入	939	938	150	150	1, 200	1, 200	268	
		長期借入れによる収入	939	938	150	150	1, 200	1, 200	268	
		その他の財務活動による収入	0	0	0	0	0	0	0	
	前	年度からの繰越金	1, 691	1, 142	501	771	907	1, 034	880	
資	金3	支出	16, 642	16, 428	14, 032	14, 520	16, 444	16, 181	15, 831	
	業	務活動による支出	12, 255	12, 747	12, 041	12, 386	13, 223	12, 963	13, 677	
		給与費支出	6, 868	7, 278	7, 170	6, 949	7, 625	7, 343	7, 685	
		材料費支出	3, 205	2, 892	2, 939	3, 277	3, 559	3, 375	3, 798	
		その他の業務活動による支出	2, 181	2, 577	1, 932	2, 159	2, 039	2, 245	2, 194	
	投	資活動による支出	1, 430	1, 674	170	71	1, 222	77	280	
		有形固定資産の取得による支出	1, 430	1, 672	170	68	1, 222	76	280	
		その他の投資活動による支出	0	2	0	3	0	1	0	
	財	務活動による支出	1, 421	1, 236	1, 203	1, 031	1, 119	989	700	
		長期借入金の返済による支出	800	801	881	919	875	875	445	
		移行前地方債償還債務の償還による支出	402	402	112	74	75	75	77	
		その他の財務活動による支出	219	34	210	38	168	39	178	
	翌	年度への繰越金	1, 536	771	618	1, 034	880	2, 152	1, 174	

⁽注)数値の単位未満については、原則として四捨五入をしているため、総数と内数が一致しない場合がある。

第7 短期借入金の限度額

中期計画	年度計画	実績
1 限度額	1 限度額	該当なし
1,000百万円	1,000百万円	
2 想定される短期借入金の発生事由 (1) 医療機器等の購入に係る一時的な資金不足への対応 (2) 業績手当(賞与)の支給等による一時的な資金不足への対応 (3) 予定外の退職者の発生に伴う退職手当の支給等、偶発的な出費への対応	2 想定される短期借入金の発生事由 (1) 医療機器等の購入に係る一時的な資金不足への対応 (2) 業績手当(賞与)の支給等による一時的な資金不足への対応 (3) 予定外の退職者の発生に伴う退職手当の支給等、偶発的な出費への対応	

第8 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

中期計画	年度計画	実績
なし	なし	該当なし

第9 剰余金の使途

中期計画	年度計画	実績
決算において剰余を生じた場	決算において剰余を生じた場	未処分利益なし
合は、病院施設の整備、医療機器	合は、病院施設の整備、医療機器	
の購入、教育・研修体制の充実、	の購入、教育・研修体制の充実、	
組織運営の向上策等に充てる。	組織運営の向上策等に充てる。	

第10 その他長崎市の規則で定める業務運営に関する事項

中期計画	年度計画	実績
1 施設及び設備に関する計画(平	施設及び設備に関する計画	
成28年度から平成31年度ま	(平成28年度)	
で)	○施設及び設備の内容	 病院施設、医療機器等整備の事業費
○施設及び設備の内容	病院施設、医療機器等整備	として、1,419百万円を支出した。
病院施設、医療機器等整備	○予定額 1,430 百万円	として、1,419日が円を文面した。
○予定額 3,326百万円	○財源	
○財源	長崎市長期借入金他	
長崎市長期借入金他		
(注)各事業年度の施設及び設備に関		
する計画の具体的な内容について	施設及び設備に関する計画	
は、各事業年度の予算編成過程にお	(平成29年度)	
いて決定される。	○施設及び設備の内容	 病院施設、医療機器等整備の事業費
	病院施設、医療機器等整備	として、184 百万円を支出した。
	○予定額 170 百万円	
2 中期目標の期間を超える債務負	○財源	
担	長崎市長期借入金他	
ア 移行前地方債償還債務		
〇中期目標期間償還額 628 百万円	施設及び設備に関する計画	
〇次期以降償還額 1,612百万円	(平成30年度)	
〇総債務償還額 2,240百万円	○施設及び設備の内容	医療機器等整備の事業費として、
	医療機器等整備	1, 223 百万円を支出した。
イ 長期借入金償還債務	○予定額 1,222百万円	
○中期目標期間償還額 3,101百万円	○財源	
○次期以降償還額 9,772 百万円 	長崎市長期借入金他	
○総債務償還額 12,873 百万円		
	施設及び設備に関する計画	
ウ 新病院整備等事業	(平成31年度)	
○事業期間	○施設及び設備の内容	
平成 28 年度から平成 42 年度まで	医療機器等整備・建設改良費	
〇中期目標期間事業費	│ ○予定額 315 百万円	
2,588 百万円 〇次期以降事業費 4,152 百万円	○財源	
○ ○ ○ 次 期 以 降 争 亲 資 4, 152 百 万 円 ○ 総 事 業 費 6, 740 百 万 円	長崎市長期借入金他	
○松争未負 0,740 日万円 		
 (注)事業期間は、中期目標期間以後		
の分について記載している。		
 3 積立金の処分に関する計画		
なし		
<u>l</u>	l	